

資料編

1 食料・農業・農村に関するアンケート調査

(1) 調査概要

① 調査方法と調査対象

調査方法：郵送配布・郵送回収

調査対象：20歳以上 80歳未満の男女各 1,000人, 計 2,000人

② 調査期間と回収状況

調査期間：平成30年5月1日（火）～平成30年5月31日（木）

回収状況：721人

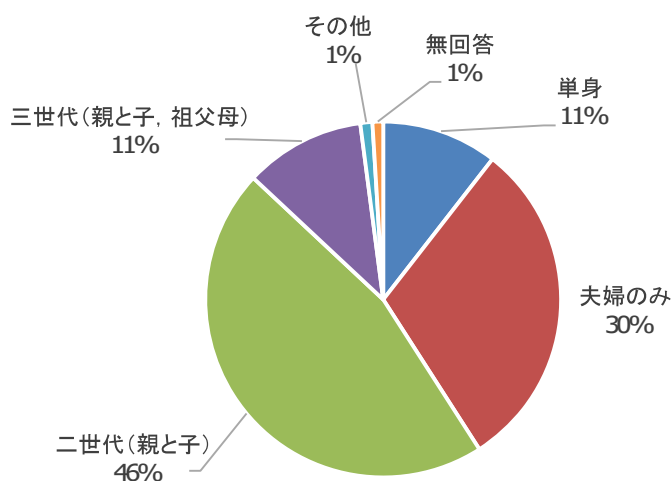
有効回収率：36.1%（721人／2,000人）

【性別・年代別回収状況】

	n	合計	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
全体	721	721	43	103	158	124	171	115	7
		100%	6%	14%	22%	17%	24%	16%	1%
男性	227	227	18	33	43	34	56	43	0
		100%	8%	15%	19%	15%	25%	19%	0%
女性	487	487	25	70	114	90	115	72	1
		100%	5%	14%	23%	18%	24%	15%	0%
無回答	7	7	0	0	1	0	0	0	6
		100%	0%	0%	14%	0%	0%	0%	86%

【世帯別回収状況】

世帯構成 (n=721)

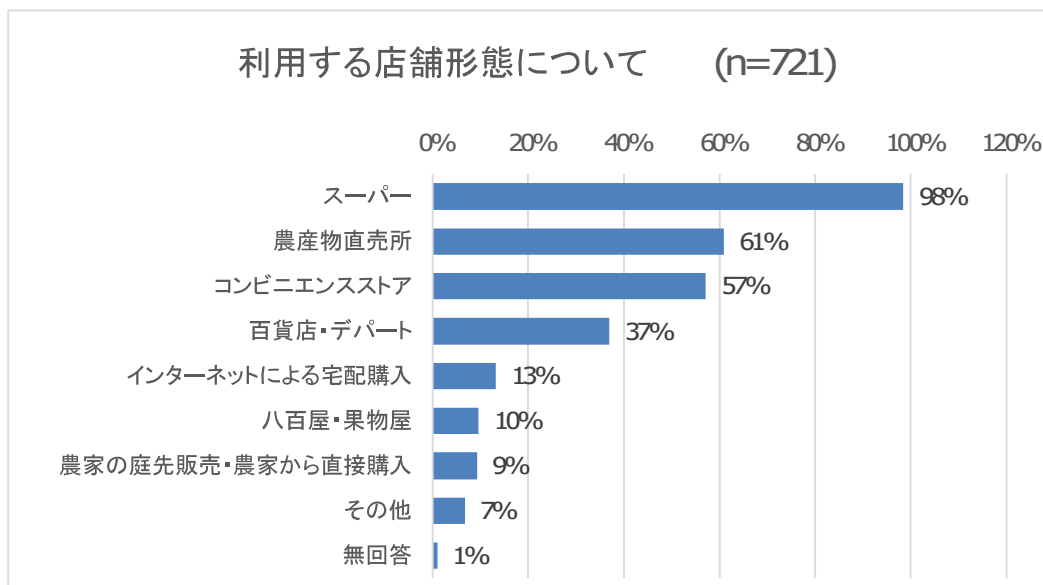


(2) 調査結果

① 食品の購入状況について

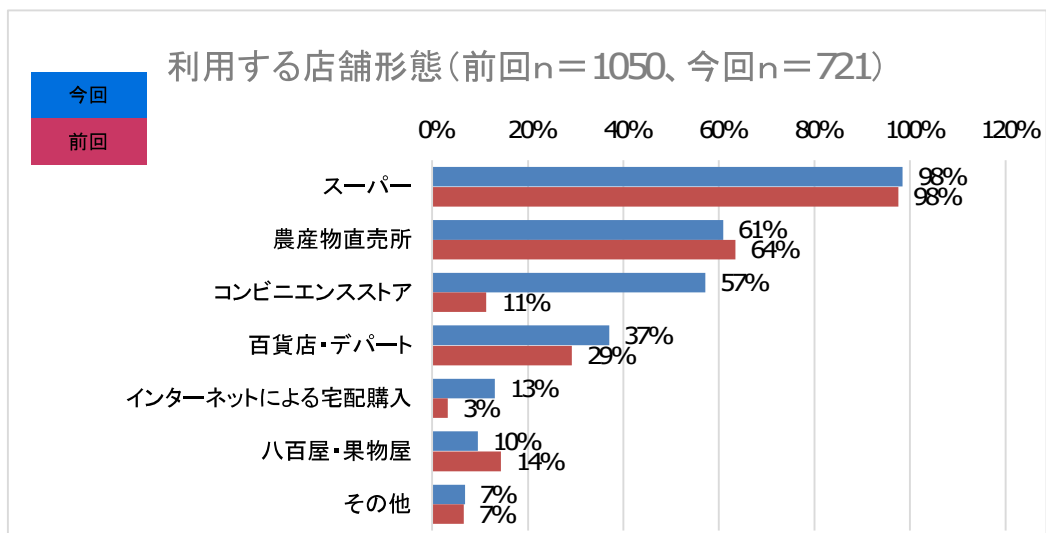
ア 利用する店舗形態

利用する店舗形態については、「スーパー」が最も多く、「農産物直売所」、「コンビニエンスストア」、「百貨店・デパート」の順となっています。



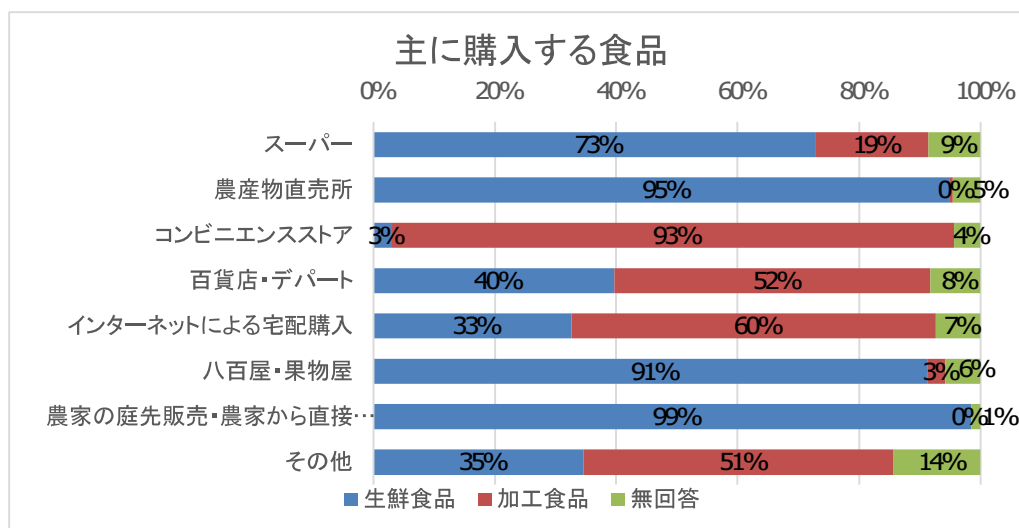
ア-1 利用する店舗形態（前回との調査の比較）

前回と比較すると、「コンビニエンスストア」が4割以上の増加となり、「インターネットによる宅配購入」も1割の増加となっています。「農産物直売所」は3%のマイナスとなっています。

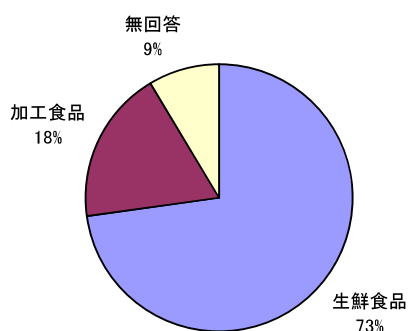


イ 主な購入品目

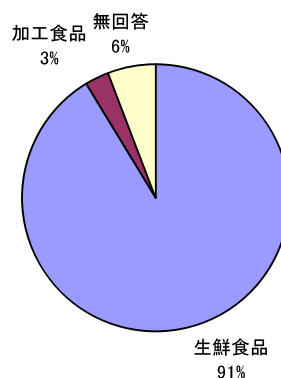
店舗形態別の主に購入する食品を見ると、「スーパー」、「農産物直売所」、「八百屋・果物屋」は生鮮食品の主な購入先となっています。「コンビニエンスストア」について、生鮮食品の主な購入場所とする回答は、3%にとどまっています。



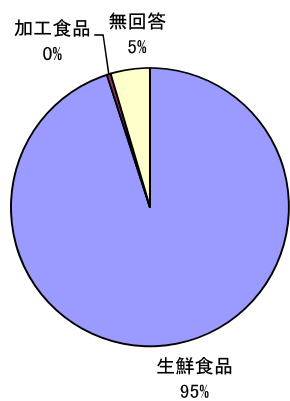
主に購入する食品 スーパー (n= 710)



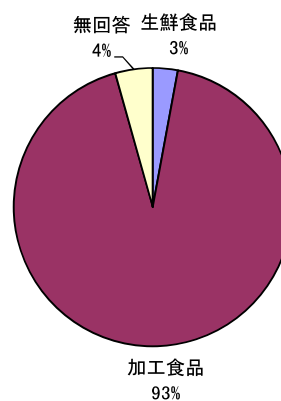
主に購入する食品 八百屋・果物屋 (n= 69)



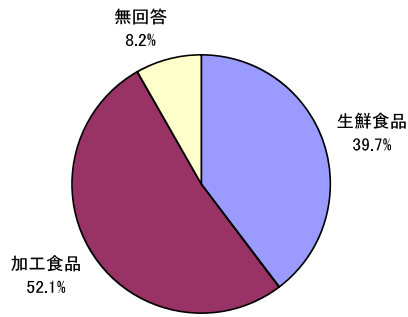
主に購入する食品 農産物直売所 (n= 439)



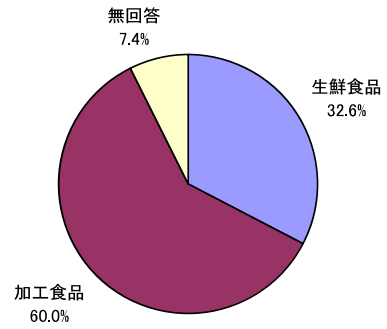
主に購入する食品 コンビニエンスストア (n= 412)



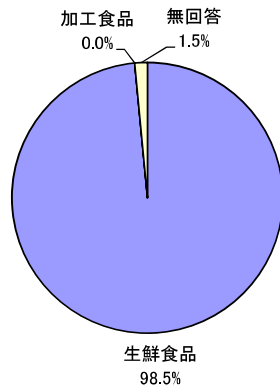
主に購入する食品 百貨店・デパート (n= 267)



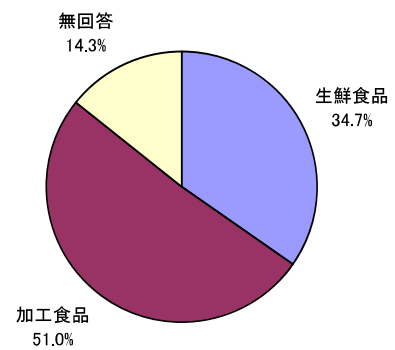
主に購入する食品 インターネットによる宅配購入 (n= 95)



主に購入する食品 農家の庭先販売・農家から直接購入 (n= 67)



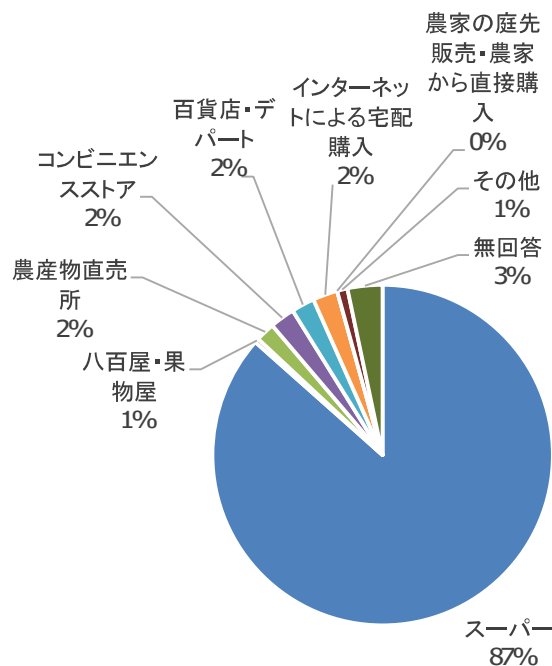
主に購入する食品 その他 (n= 49)



ウ 最も利用する店舗形態

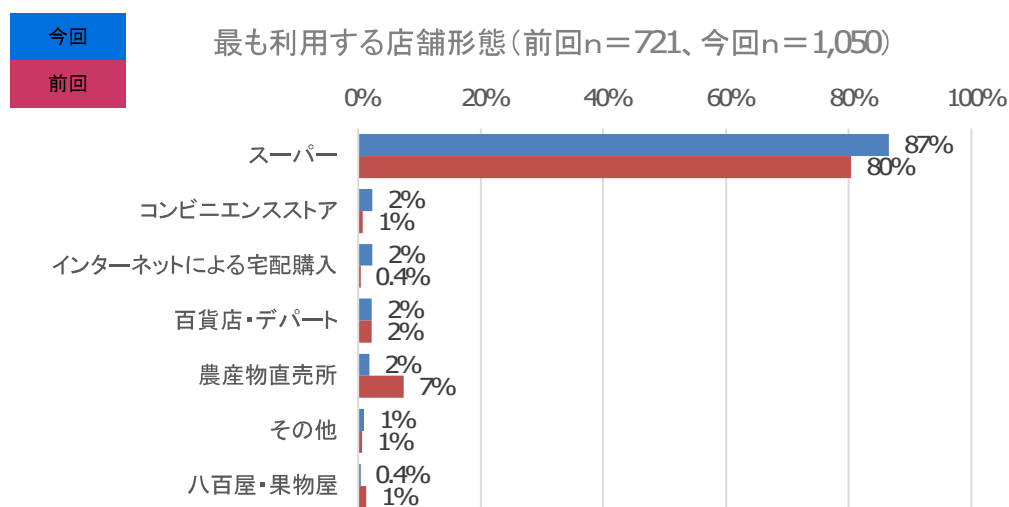
食品を購入する際に最も利用する店舗形態は、「スーパー」が、87%と最も多くなっています。「農産物直売所」等の他の店舗形態は、いずれも2%以下となっています。

最も利用する店舗形態 (n=721)



ウー1 最も利用する店舗形態（前回との調査の比較）

前回と比較すると、主な変化としては「スーパー」が増え、「農産物直売所」が減っています。



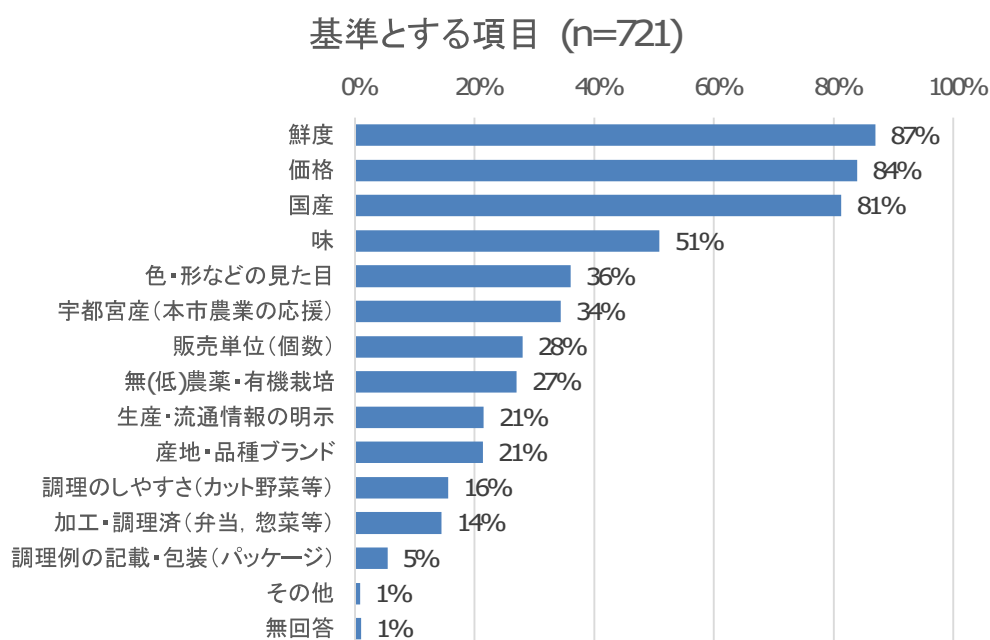
※前回と同様の選択肢を抜粋

② 農産物の購入に係るニーズについて

ア 購入する際に基準とする項目

農産物を購入する際に基準とする項目については、「鮮度」が87%で最も多く、「価格」,「国産」も8割台となっています。品質面では、「味」が51%、「色・形などの見た目」が36%となっています。

「宇都野宮産」については、34%と3人に1人の市民が、基準としています。



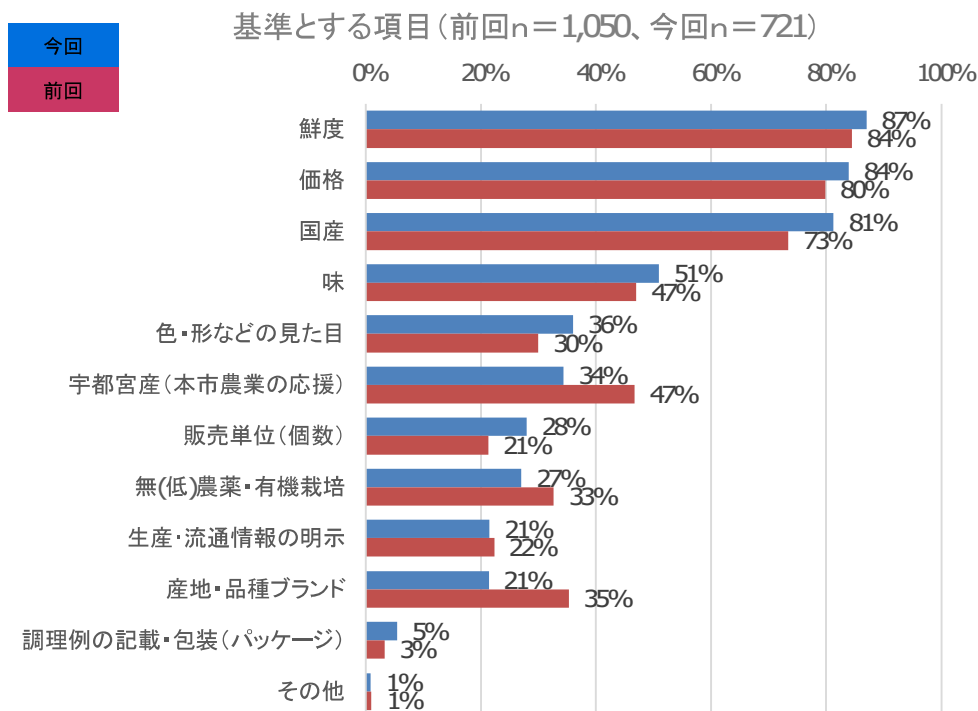
ア－1 購入する際に基準とする項目（年代別結果）

回答の結果を年代別に見ると、若い年代ほど「価格」、「色・形などの見た目」を基準とする割合が高くなっています。一方、「宇都宮産」、「国産」、「無（低）農薬・有機栽培」を基準とする割合は、中高年層に比べて低くなっており、農産物の選択基準が価格と見た目に集中しています。

	n	合計	宇都宮産 (本市農業の 応援)	国産	生産・流通 情報の 明示	産地・品 種ブランド	無(低)農 薬・有機 栽培	鮮度	味	色・形な どの見た 目	価格	調理例の 記載・包 装(パッケージ)	販売単位 (個数)	調理のし やすさ (カット野 菜等)	加工・調 理済(弁 当、惣菜 等)
全体	721	3667	248	586	155	154	195	627	361	260	605	39	202	112	104
		509%	34%	81%	21%	21%	27%	87%	51%	36%	84%	5%	28%	16%	14%
20代	43	200	3	28	6	7	4	31	21	24	40	2	11	12	6
		465%	7%	65%	14%	16%	9%	72%	60%	56%	93%	5%	26%	28%	14%
30代	103	537	29	77	23	21	24	86	60	56	93	3	29	20	13
		521%	28%	75%	22%	23%	23%	83%	58%	54%	90%	3%	28%	19%	13%
40代	158	797	53	127	30	31	41	139	73	53	148	6	49	27	16
		504%	34%	80%	19%	22%	26%	88%	46%	34%	94%	4%	31%	17%	10%
50代	124	649	45	107	28	30	29	117	64	42	105	2	44	17	17
		523%	36%	86%	23%	24%	23%	94%	52%	34%	85%	2%	35%	14%	14%
60代	171	888	63	143	39	35	56	152	88	52	137	14	48	18	37
		519%	37%	84%	23%	20%	33%	89%	51%	30%	80%	8%	28%	11%	22%
70代	115	562	54	99	28	21	41	96	51	30	75	12	20	16	14
		489%	47%	86%	24%	18%	36%	83%	44%	26%	65%	10%	17%	14%	12%
無回答	7	34	1	5	1	0	0	6	5	3	7	0	1	2	1
		486%	14%	71%	14%	29%	0%	86%	71%	43%	100%	0%	14%	29%	14%

ア－2 購入する際に基準とする項目（前回調査との比較）

前回と比較すると、あまり大きな差は見られません。唯一、宇都宮産（本市農業の応援）について、前回から1割以上の減少となっていますが、前回調査と選択肢の表現（前回の調査では「地場産品」と表記）が変更されていることの影響も考えられます。

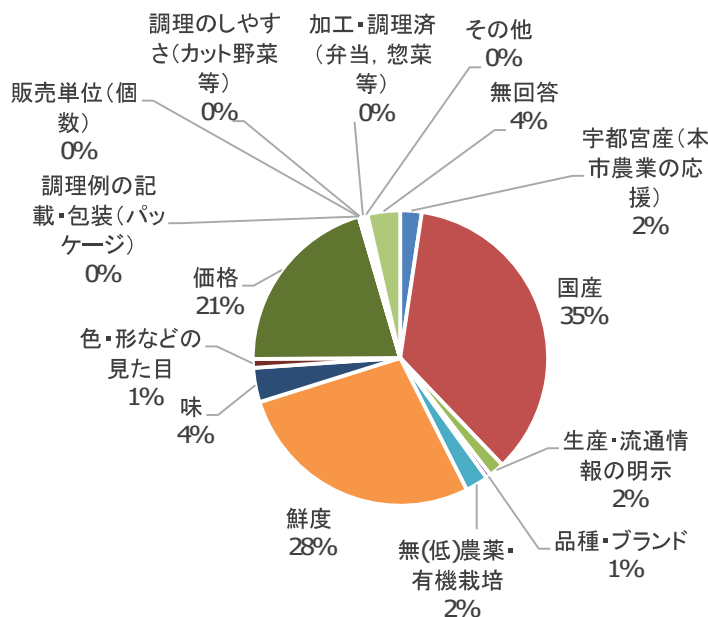


※前回と同様の選択肢を抜粋（「宇都宮産」は、前回調査では「地場産品」と表記）

イ 最も重視する項目

農産物を購入する際の基準のうち最も重視する項目については、「国産」が35%と最も多く、次に、「鮮度」、「価格」の順となっています。「宇都宮産（本市農業の応援）」との回答は2%でした。

最も重視する項目 (n=721)



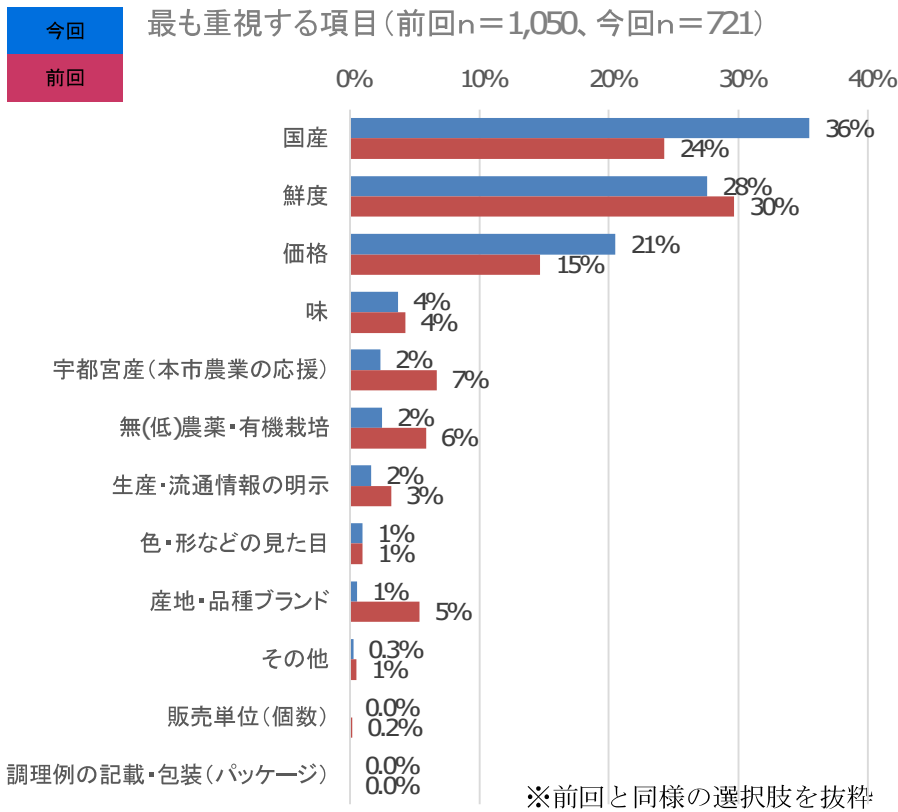
イ-1 最も重視する項目（年代別結果）

回答の結果を年代別に見ると、若い年代は「価格」を重視する割合が高くなっています。

	n	合計	宇都宮産 (本市農業の応援)	国産	生産・流通 情報の明示	産地・品 種ブランド	無(低)農 薬・有機 栽培	鮮度	味	色・形な どの見た 目	価格	調理例の 記載・包 装(パッ ケージ)	販売単位 (個数)	調理のし やすさ (カット野 菜等)	加工・調 理済(弁 当, 惣菜 等)
全体	721	721	17	256	12	4	18	199	27	7	148	0	0	2	3
		100%	2%	36%	2%	1%	2%	28%	4%	1%	21%	0%	0%	0%	0%
20代	43	43	0	8	1	2	0	7	2	2	19	0	0	1	1
		100%	0%	19%	2%	5%	0%	16%	5%	5%	44%	0%	0%	2%	2%
30代	103	103	1	35	3	1	1	28	6	2	24	0	0	1	1
		100%	1%	34%	3%	1%	1%	27%	6%	2%	23%	0%	0%	1%	1%
40代	158	158	3	59	2	0	4	41	4	1	40	0	0	0	1
		100%	2%	37%	1%	0%	3%	26%	3%	1%	25%	0%	0%	0%	1%
50代	124	124	2	37	1	0	5	46	7	1	23	0	0	0	0
		100%	2%	30%	1%	0%	4%	37%	6%	1%	19%	0%	0%	0%	0%
60代	171	171	5	65	4	1	4	47	4	1	30	0	0	0	0
		100%	3%	38%	2%	1%	2%	27%	2%	1%	18%	0%	0%	0%	0%
70代	115	115	6	52	1	0	4	29	2	0	9	0	0	0	0
		100%	5%	45%	1%	0%	3%	25%	2%	0%	8%	0%	0%	0%	0%
無回答	7	7	0	0	0	0	0	1	2	0	3	0	0	0	0
		100%	0%	0%	0%	0%	0%	14%	29%	0%	43%	0%	0%	0%	0%

イー2 最も重視する項目（前回の調査との比較）

前回と比較すると、「国産」を重視するとの回答が1割以上増えています。

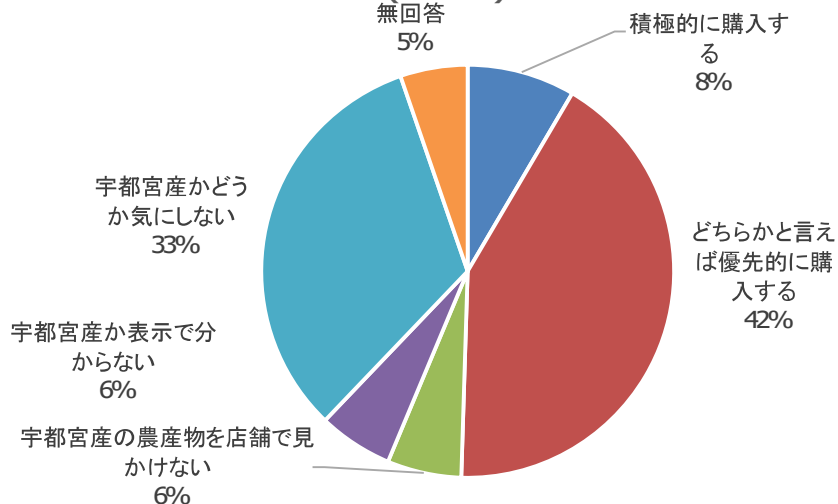


③ 地産地消の取組について

ア 宇都宮市の農産物の購入状況

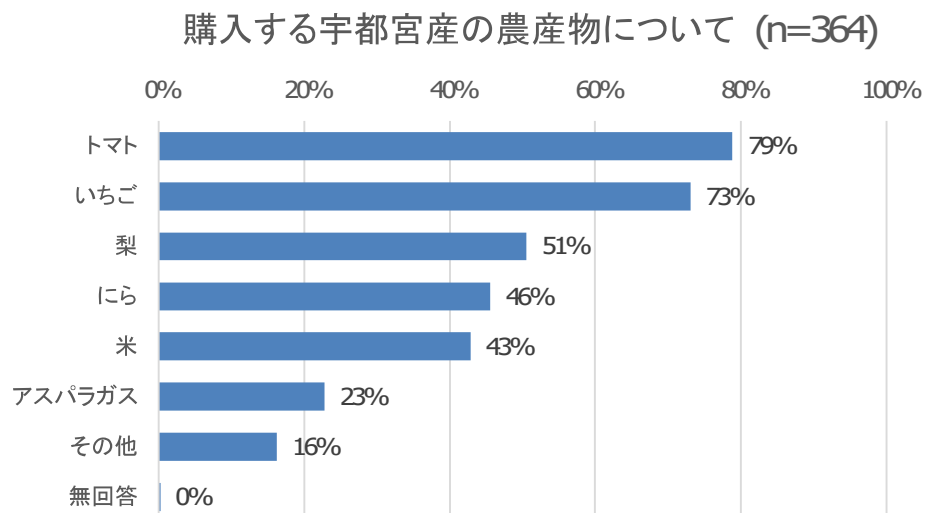
宇都宮産農産物の購入については、「積極的に購入する」が8%、「どちらかと言えば優先的に購入する」が42%となっており、合計して半数の市民が、「宇都宮産」を優先して購入しています。「宇都宮産かどうか気にしていない」との回答は、3割となっています。

宇都宮産の農産物の購入状況について (n=721)



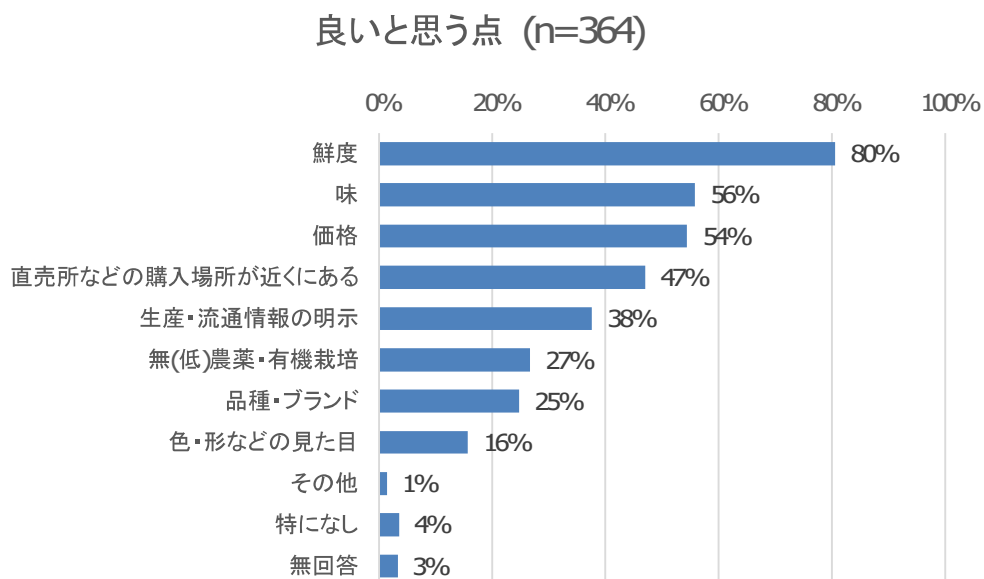
イ 購入する宇都宮産の農産物

購入する宇都宮産の農産物については、「トマト」が79%と最も多く、次に、「イチゴ」が73%で続きます。第3位以降は、「梨」、「にら」、「米」、「アスパラガス」の順となっています。



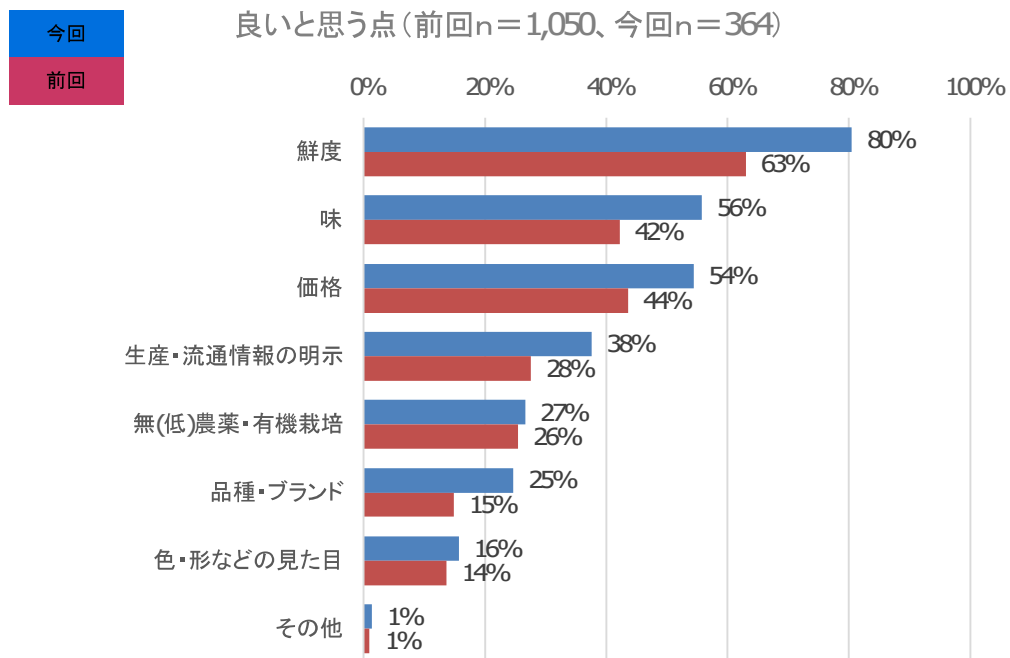
ウ 宇都宮産農産物を購入して良いと思う点

宇都宮産農産物を購入した感想のうち、良いと思う点については、「鮮度」が80%と多く、次に、「味」が56%、「価格」が54%、「直売所などの購入場所が近くにある」が47%の順となっています。



ウー1 宇都宮産農産物を購入して良いと思う点（前回調査との比較）

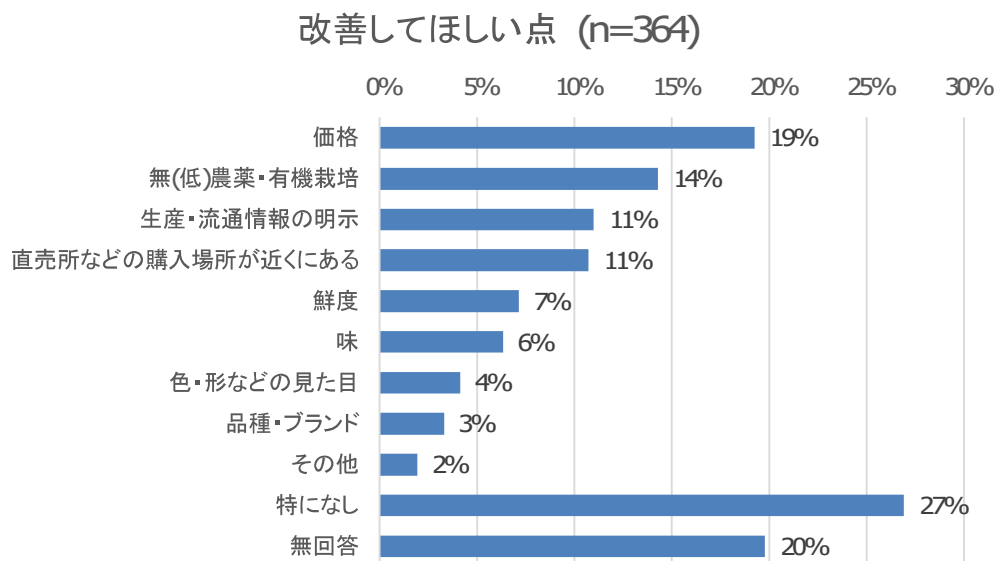
前回と比較すると、「鮮度」、「味」、「価格」等の項目で、評価する割合が高くなっています。



※前回と同様の選択肢を抜粋

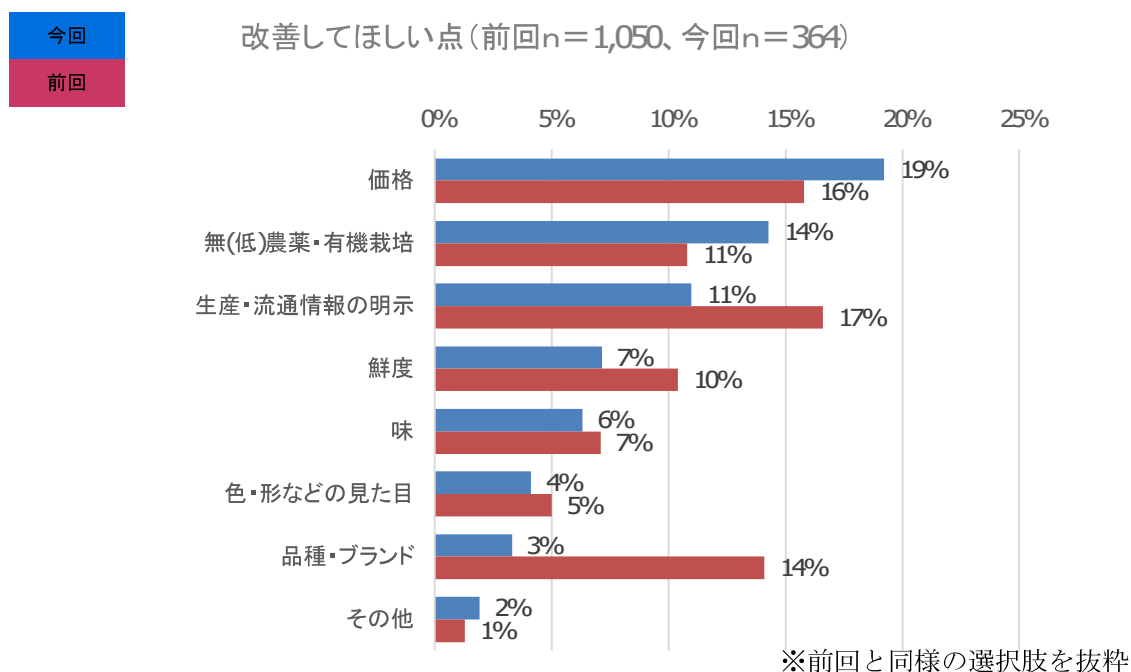
エ 宇都宮産農産物を購入して改善してほしい点

宇都宮産農産物を購入した感想のうち、改善してほしい点については、「価格」が19%で最も多く、「無(低)農薬・有機栽培」が14%、「生産・流通情報の明示」と「直売所などの購入場所が近くにある」が11%の順となっています。



エー１ 宇都宮産農産物を購入して改善してほしい点（前回調査との比較）

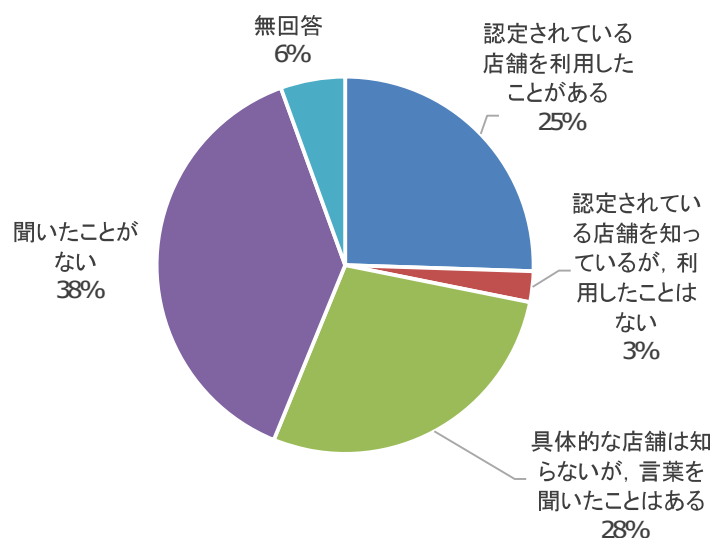
前回と比較すると、「品種・ブランド」で改善を求める回答が1割以上減っている他、「生産・流通情報の明示」でも6%減っています。「無（低）農薬・有機栽培」は、改善を求める回答が3%増えています。



オ 「うつのみや地産地消推進店」の認知・利用状況

うつのみや地産地消推進店については、「認定されている店舗を利用したことがある」が28%、「認定されている店舗を知っているが、利用したことはない」が3%となっており、2つの回答を合計した認定店舗の認知度は、概ね3割となっています。

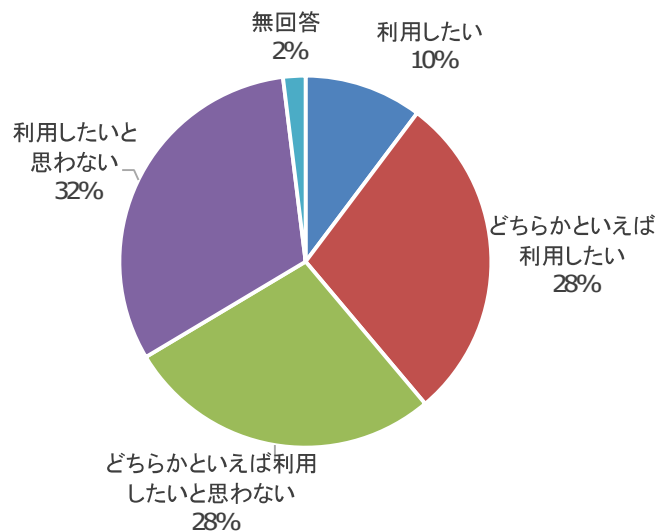
「うつのみや地産地消推進店」の認知・利用状況について (n=721)



カ インターネット等で宇都宮産の農産物を生産者から直接購入できる仕組みについて

インターネット等で宇都宮産の農産物を生産者から直接購入できる仕組みについては、「利用したい」が10%となっています。「どちらかといえば利用したい」の29%と合わせると、概ね4割の市民が利用の意向を示しています。

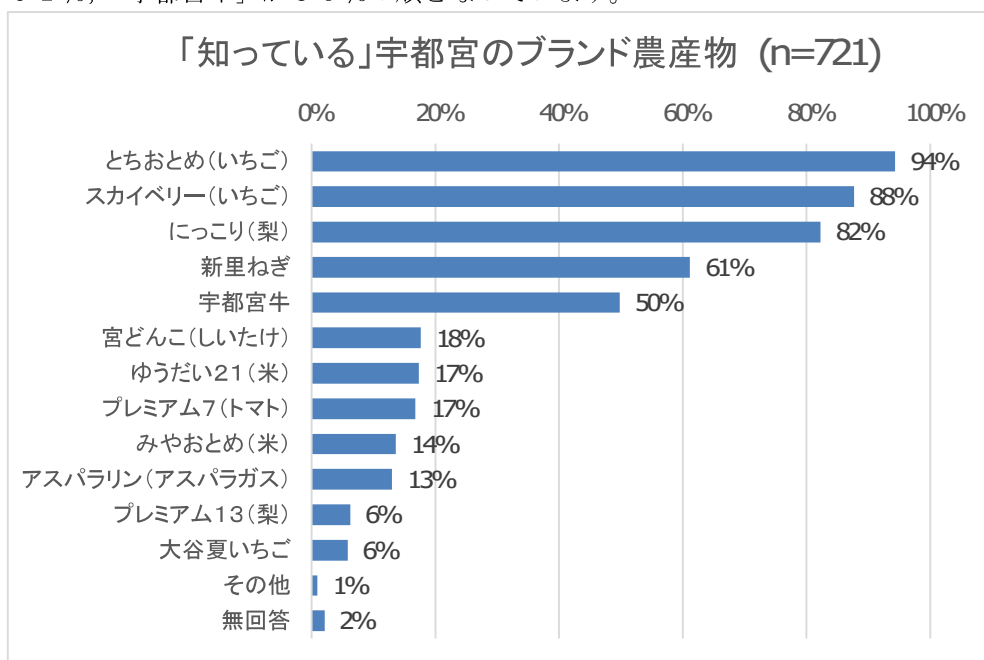
インターネット等で宇都宮産の農産物を
生産者から直接購入できる仕組みに
ついて (n=721)



④ 宇都宮ブランド農産物の認知度・ニーズについて

ア 知っているブランド農産物

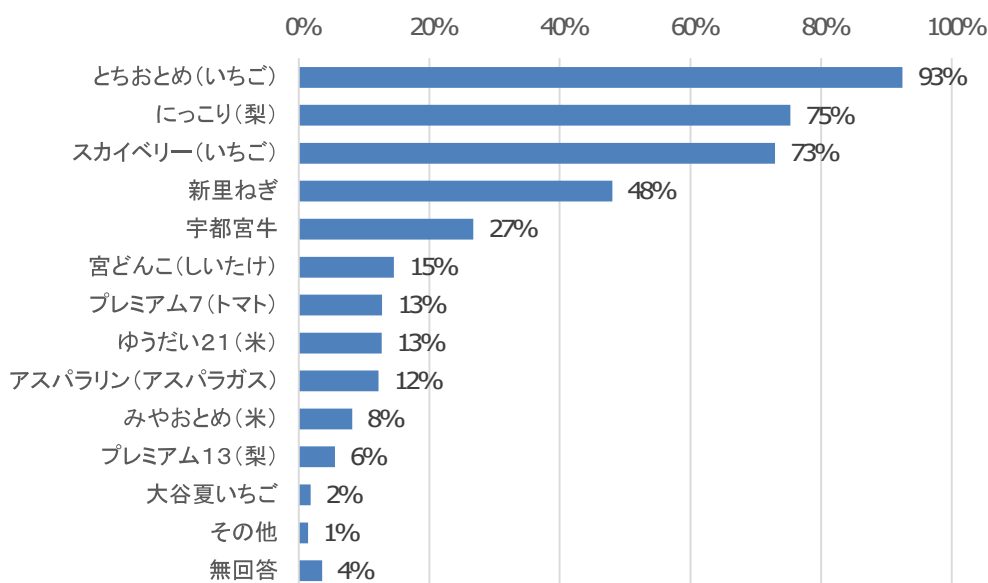
知っているブランド農産物については、「とちおとめ」が94%と最も多く、「スカイベリー」、 「にっこり」が8割台で続き、地理的表示保護制度（GI）の登録品種である「新里ねぎ」が61%、「宇都宮牛」が50%の順となっています。



イ 食べたことがあるブランド農産物

食べたことがあるブランド農産物については、「とちおとめ」が93%と最も多く、「にっこり」,
「スカイベリー」が7割台で続き、「新里ねぎ」は48%となっています。

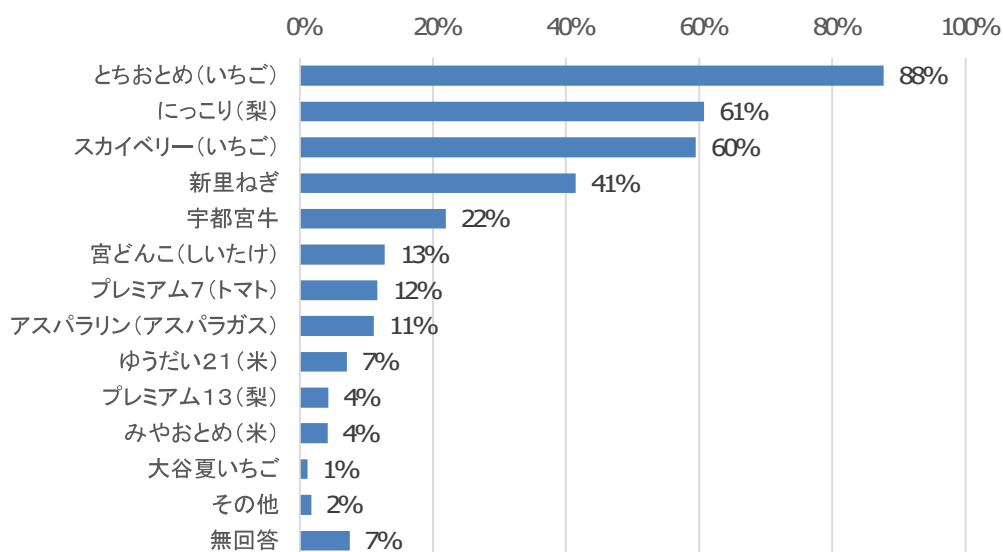
「食べたことがある」宇都宮のブランド農産物 (n=721)



ウ 購入したことがあるブランド農産物

購入したことがあるブランド農産物については、「とちおとめ」が88%と最も多く、「にっこり」,
「スカイベリー」が6割台で続き、「新里ねぎ」は41%となっています。

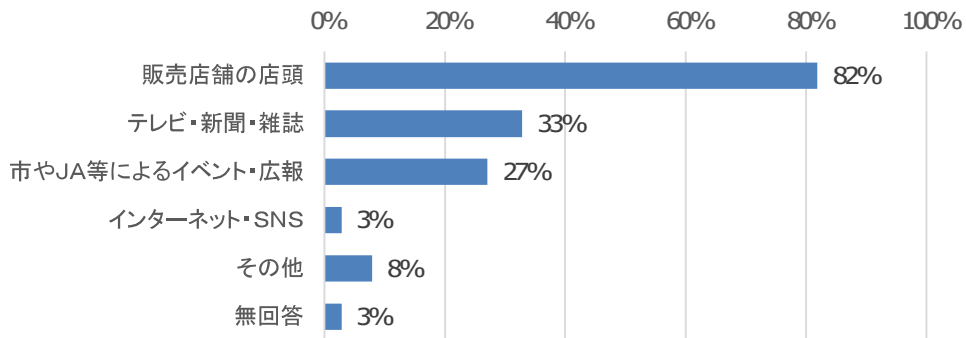
「購入したことがある」宇都宮のブランド農産物 (n=721)



エ ブランド農産物を知った経緯

ブランド農産物を知った経緯については、「販売店舗の店頭」が82%と最も多く、次に「テレビ・新聞・雑誌」が33%、「市やJA等によるイベント・広報」が27%の順となっています。

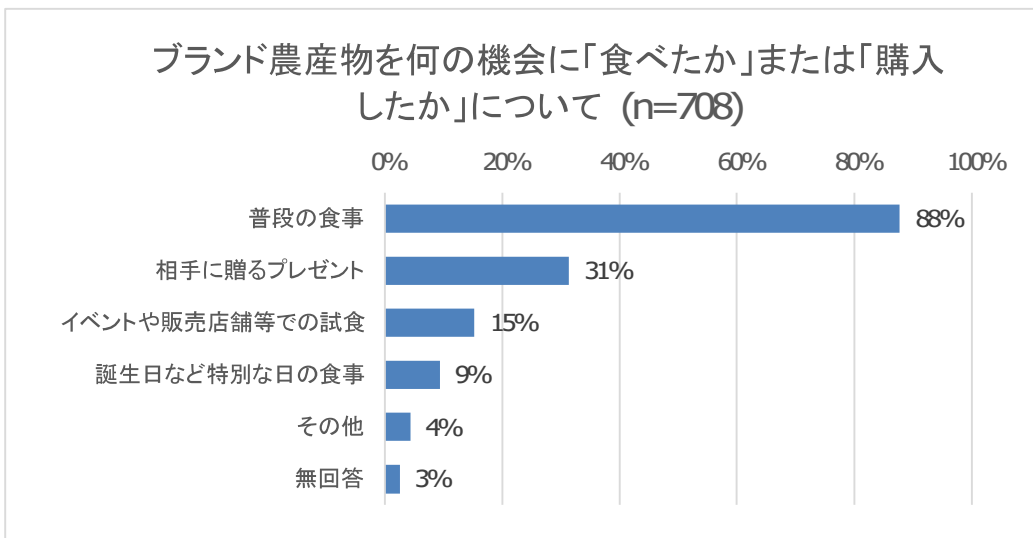
ブランド農産物をどのように知ったかについて (n=706)



オ ブランド農産物を「食べた」または「購入した」機会

ブランド農産物を「食べた」または「購入した」機会としては、「普段の食事」が88%と最も多く、次に「相手に送るプレゼント」が31%となっています。

ブランド農産物を何の機会に「食べたか」または「購入したか」について (n=708)

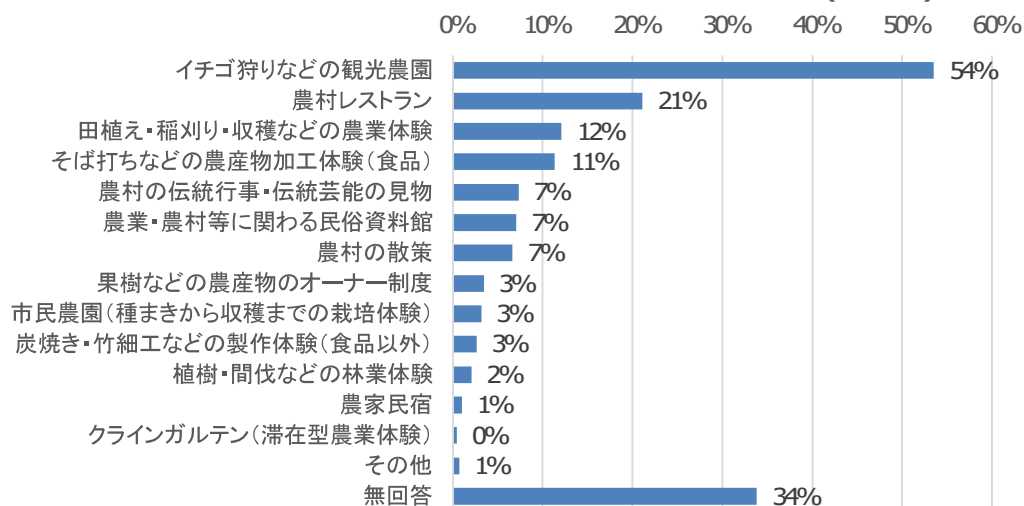


⑤ 都市農村交流に対するニーズについて

ア 参加・利用したことのあるイベント・体験活動

参加・利用したことのあるものとしては、「イチゴ狩りなどの観光農園」が54%と最も多く、次に「農村レストラン」が21%、「田植え・稲刈り・収穫などの農業体験」が12%、「そば打ちなどの農産物加工体験（食品）」が11%の順となっています。

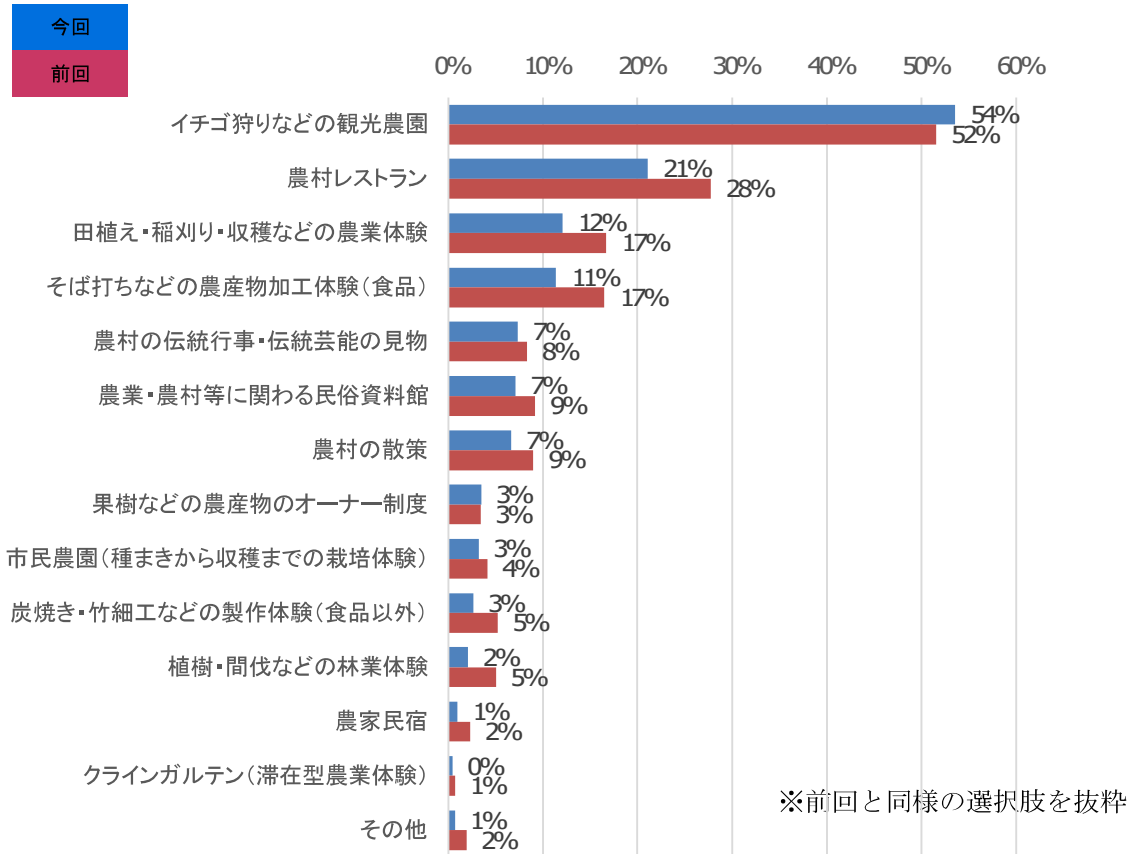
農林業に関するイベント・体験活動への参加状況や関連施設
の利用状況（参加・利用したことのあるもの）(n=721)



ア-1 参加・利用したことのイベント・体験活動（前回調査との比較）

前回と比較すると、「イチゴ狩りなどの観光農園」で、参加・利用経験のある回答が増えています。「農村レストラン」、「田植え・稲刈り・収穫などの農業体験」等の多くの項目で、参加・利用経験のある回答が減っています。

農林業に関するイベント・体験活動への参加状況や関連施設の利用状況
（参加・利用したことのあるもの）（前回n=1,050、今回n=721）

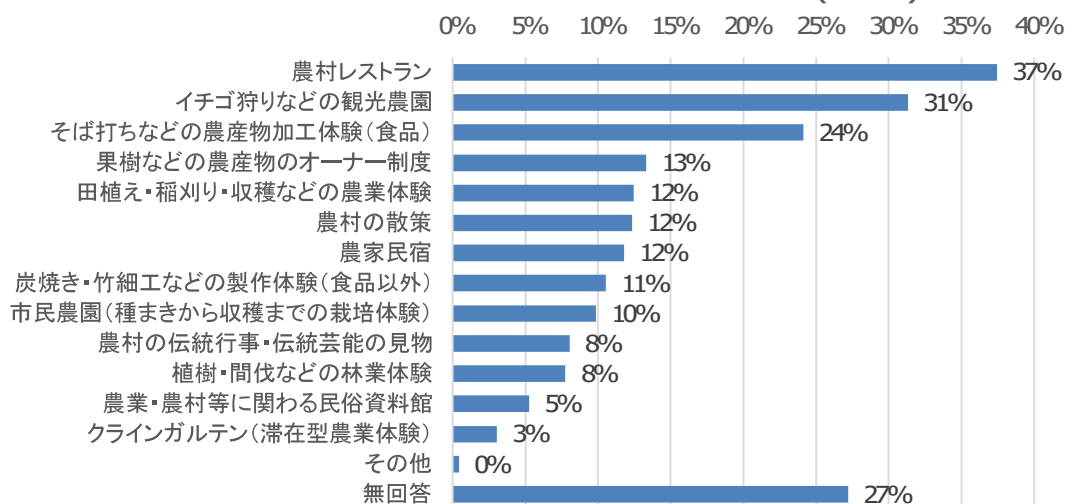


イ 参加・利用したいイベント・体験活動

参加・利用したいものとしては、「農村レストラン」が37%と最も多く、次に「いちご狩りなどの観光農園」が31%、「そば打ちなどの農産物の加工体験（食品）」が24%の順となっています。

参加・利用したことのあるものと比べると、「農村レストラン」、「そば打ちなどの農産物加工体験（食品）」、「果樹などの農産物のオーナー制度」等で、参加・利用の意向が高くなっています。

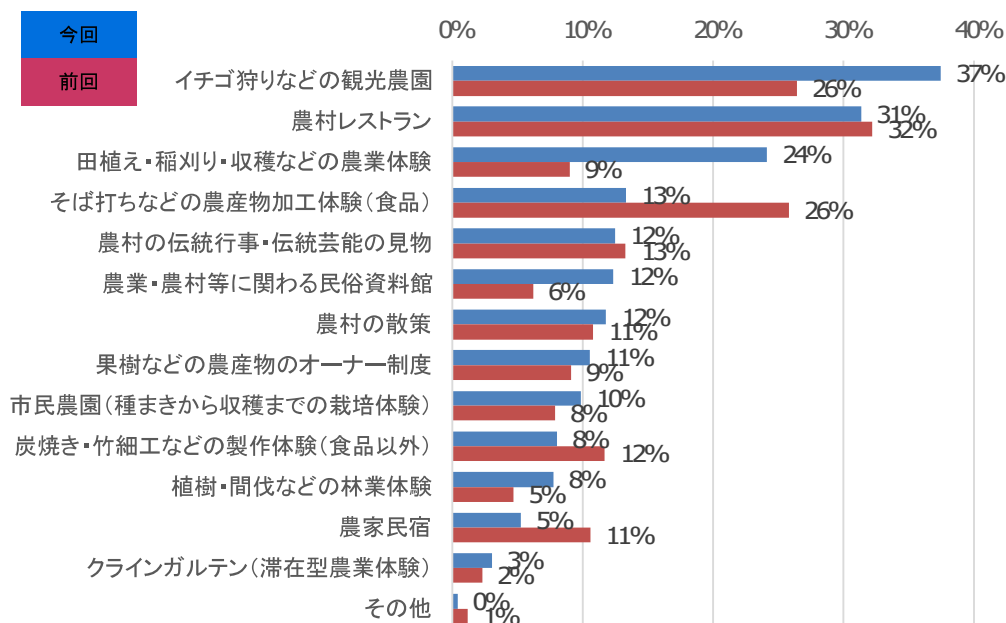
農林業に関するイベント・体験活動への参加状況や関連施設の
利用状況について(参加・利用してみたいもの) (n=721)



イー1 参加・利用したいイベント・体験活動（前回調査との比較）

前回と比較すると、「いちご狩りなどの観光農園」、「田植え・稲刈り・収穫などの農業体験」等、農作業を伴う項目について、参加・利用を希望する回答が高くなっています。また、民俗資料館も参加・利用を希望する回答が高くなっています。対して「そば打ちなどの農産物加工体験（食品）」は、前回より、参加・利用を希望する回答が1割以上低くなっています。

農林業に関するイベント・体験活動への参加状況や関連施設の利用状
況 (参加・利用してみたいもの) (前回n=1,050、今回n=721)



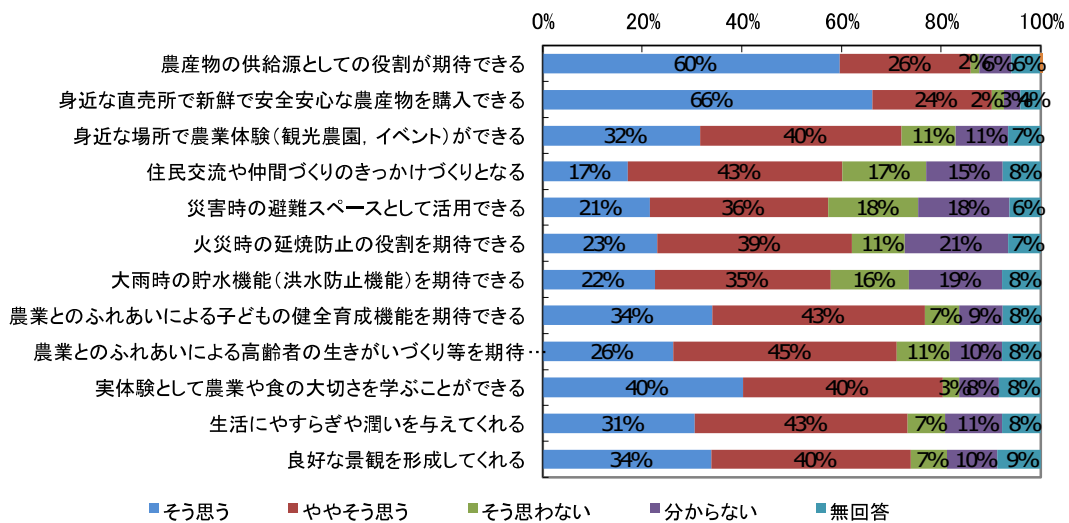
⑥ 都市農業・都市農地に対するニーズについて

ア 市街地などの身近に農地や農業があることによる期待

市街地などの身近に農地や農業があることによって期待されることについては、「身近な直売所で新鮮で安全安心な農産物を購入できる」、「農産物の供給源としての役割が期待できる」といった農産物の供給に関する期待が上位となっています。

次に「実体験として農業や食の大切さを学ぶことができる」、「農業とのふれあいによる子どもの健全育成機能を期待できる」、「生活にやすらぎや潤いを与えてくれる」が続きます。

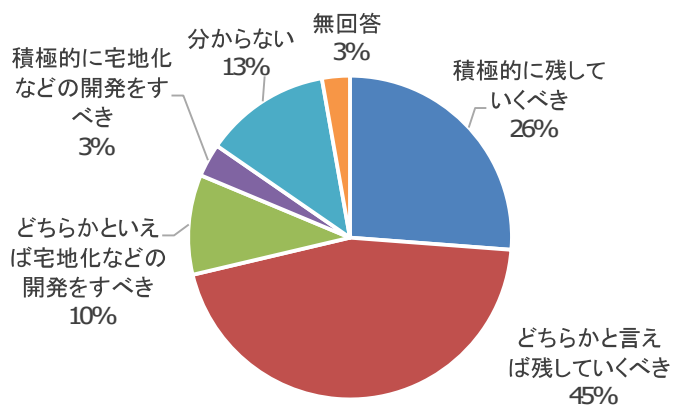
市街地など身近に農地や農業があることによって期待されることで、あな自身の考えに近いもの (n=721)



イ 市の中心部や住宅地に農地や農業を残していくべきかについて

市の中心部や住宅地に農地や農業を残すべきかについては、「積極的に残していくべき」が26%となっており、「どちらかと言えば残していくべき」の45%と合計して、残すべきとの意見が7割となりました。一方で、「開発すべき」との回答は、「どちらかといえば」、「積極的に」を合計して13%でした。

市の中心部や住宅地にも農地や農業を残していくべきかについて (n=721)

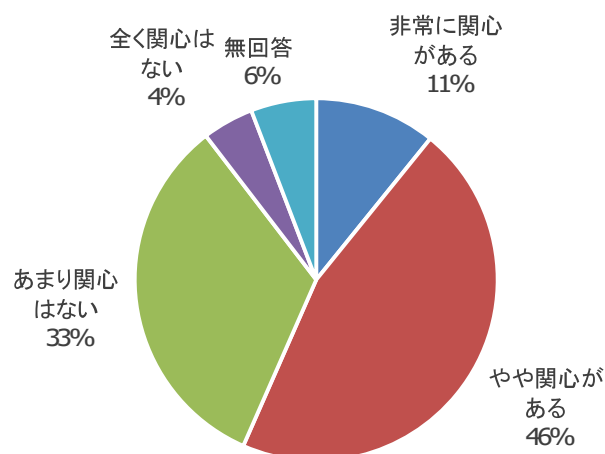


⑦ 農業・農政全般に対する関心度について

ア 農業への関心

農業への関心については、「非常に関心がある」が11%となっており、「やや関心がある」の46%と合計して、概ね6割の市民が、「関心がある」としています。

農業の関心度について (n=721)



ア-1 農業への関心（年代別結果）

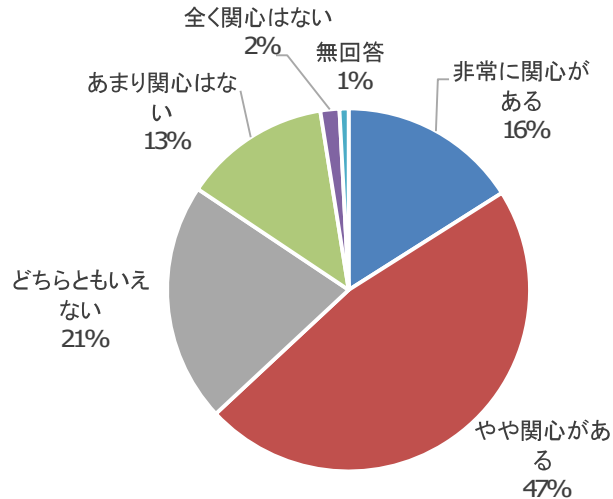
回答の結果を年代別に見ると、40代以降で関心を持つ回答が増える傾向にあります。

	n	非常に関心がある	やや関心がある	あまり関心はない	全く関心はない	無回答
全体	721	78 11%	330 46%	238 33%	33 5%	42 5%
20代	43	4 9%	17 40%	17 40%	4 9%	1 2%
30代	103	10 10%	37 36%	43 42%	7 7%	6 5%
40代	158	15 9%	72 46%	54 34%	10 6%	7 5%
50代	124	8 6%	65 52%	45 36%	4 3%	2 3%
60代	171	25 15%	83 49%	45 26%	4 2%	14 8%
70代	115	16 14%	53 46%	32 28%	3 3%	11 9%

ア-2 農業への関心（前回調査との比較）

選択肢が異なるため、単純な比較はできませんが、前回と比べると、関心のある回答者の合計が63%から57%に減少し、関心のない回答者の合計が15%から37%に増えています。

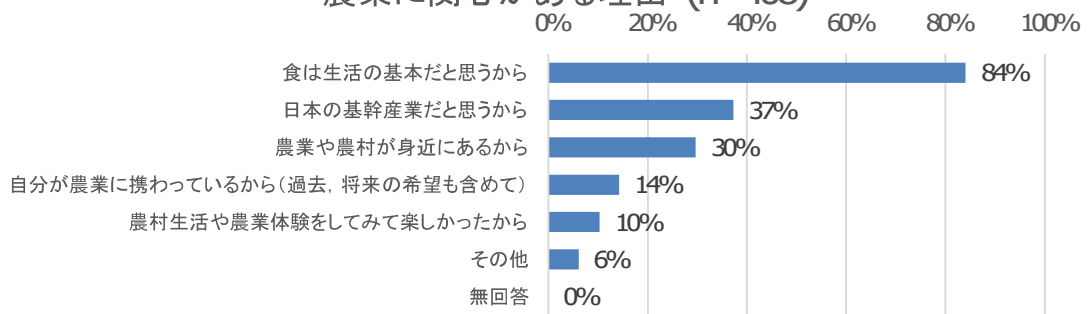
参考：前回H24年8月調査（n=1050）



イ 農業への関心の理由

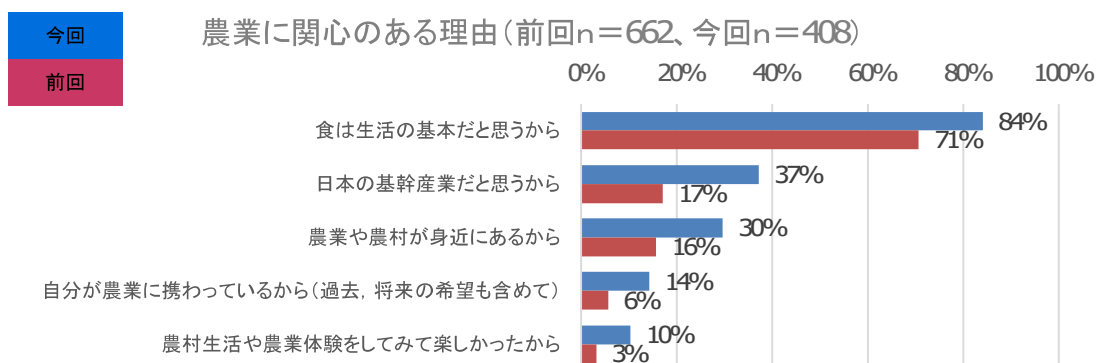
農業への関心の理由については、「食は生活の基本だと思うから」が84%と最も多く、次に「日本の基幹産業だと思うから」が37%、「農業や農村が身近にあるから」が30%の順となっています。

農業に関心がある理由（n=408）



イー1 農業への関心の理由（前回調査との比較）

前回と比較すると、全般的に関心のある理由を回答する割合が高くなっています。中でも「日本の基幹産業だと思うから」は、前回より2割高くなっています。



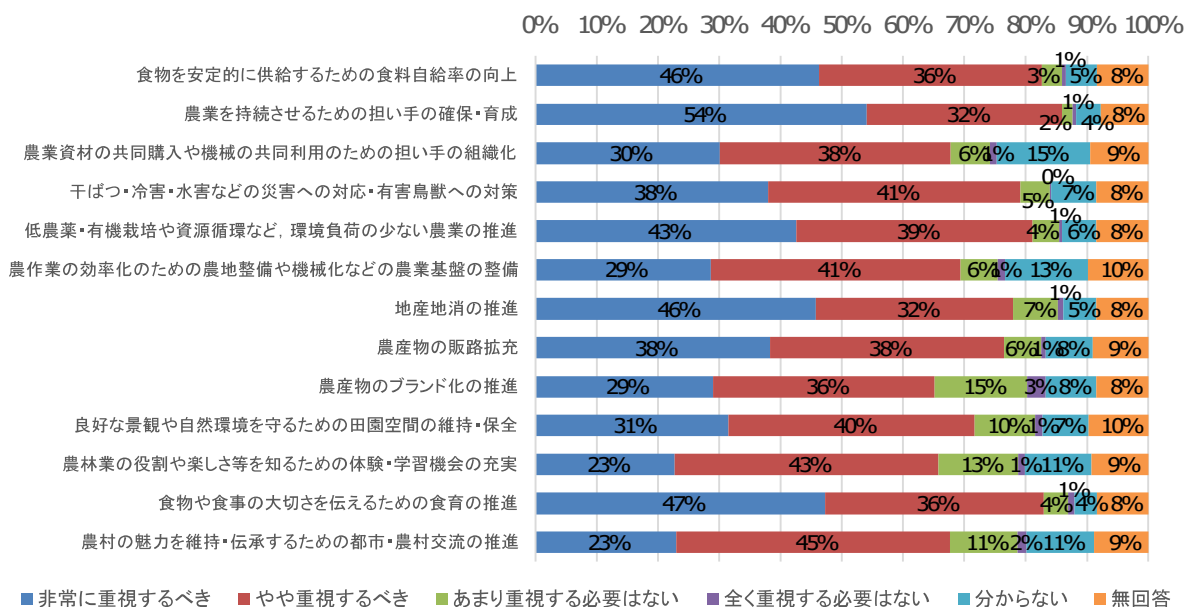
※前回と同様の選択肢を抜粋

ウ 今後重視することが必要とされる宇都宮市の施策について

重視することが必要と考える宇都宮市の施策については、「農業を持続させるための担い手の確保・育成」が最も多く、「食物や食事の大切さを伝えるための食育の推進」、「食物を安定的に供給するための食料自給率の向上」の順となっています。

職業として農業に携わらない、市民から見ても担い手対策を重要視していることがわかります。

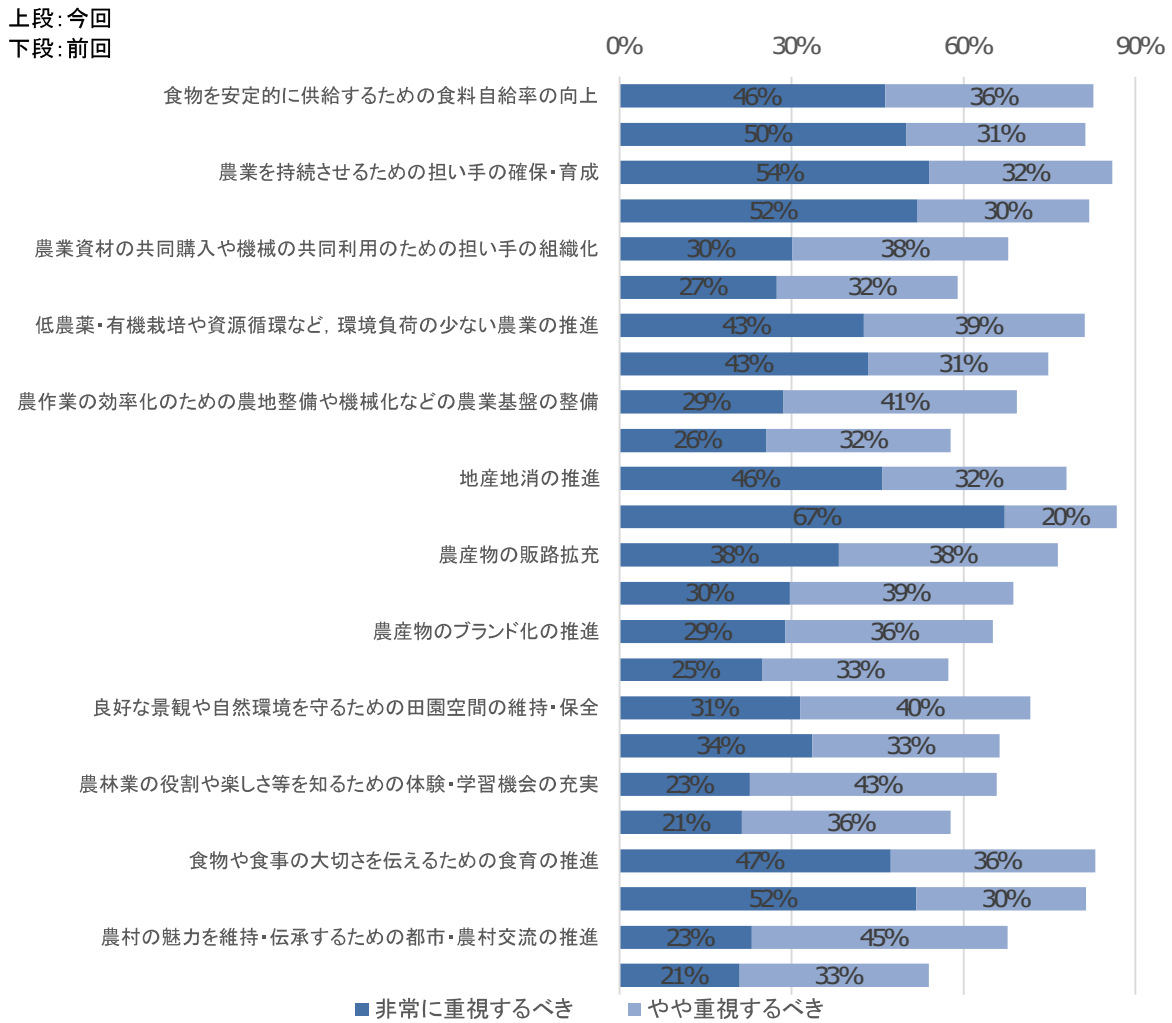
今後重視が必要と考える宇都宮市の施策 (n=721)



ウー1 今後重視することが必要とされる宇都宮市の施策について（前回調査との比較）

前回と比較すると、「農作業の効率化のための農地整備や機械化などの農業基盤の整備」において、重視すべきとの回答の合計が1割以上高くなっています。

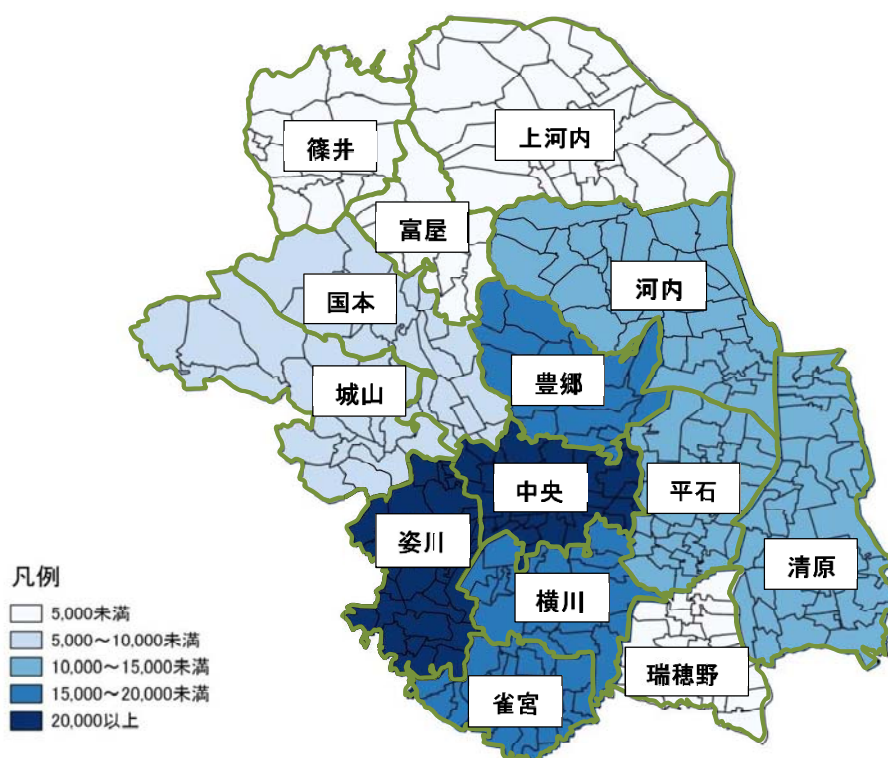
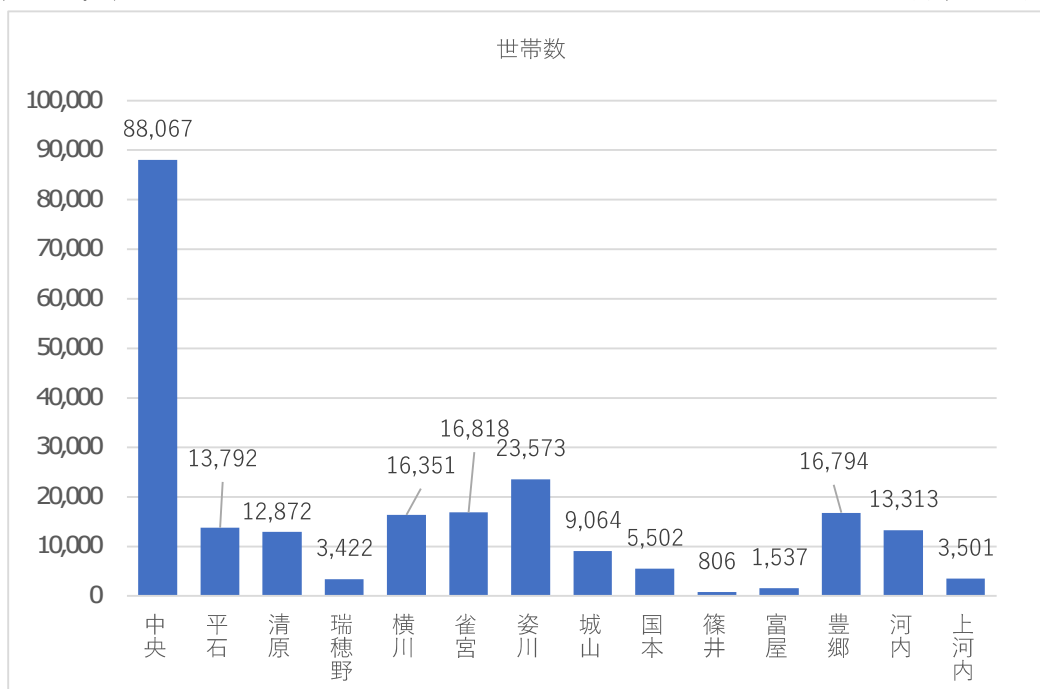
今後重視が必要と考える宇都宮市の施策（前回n=1,050、今回n=721）
（非常に重視するべき、やや重視するべきのみ抜粋）



2 地区別の現状に関する調査結果

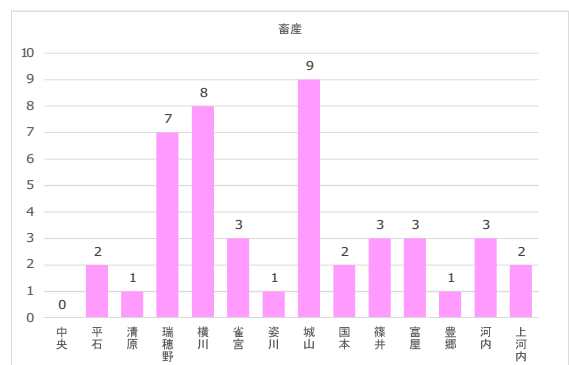
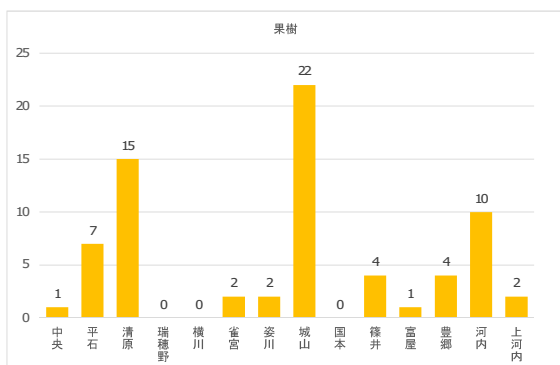
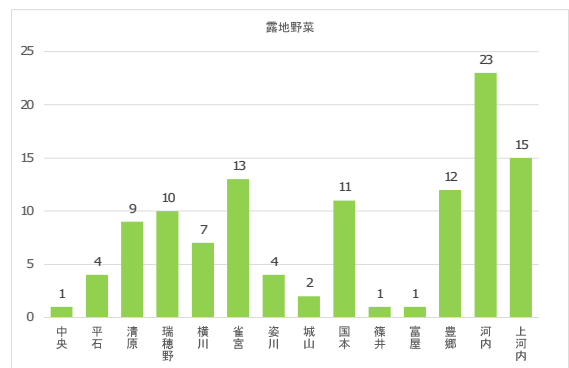
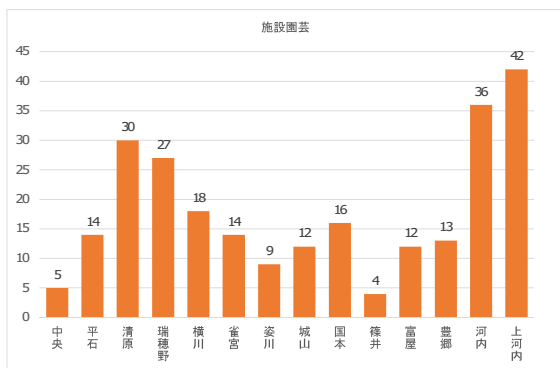
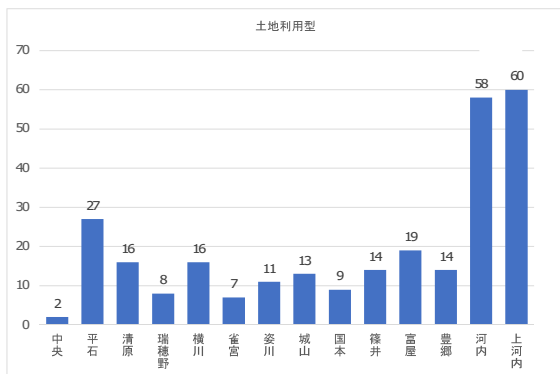
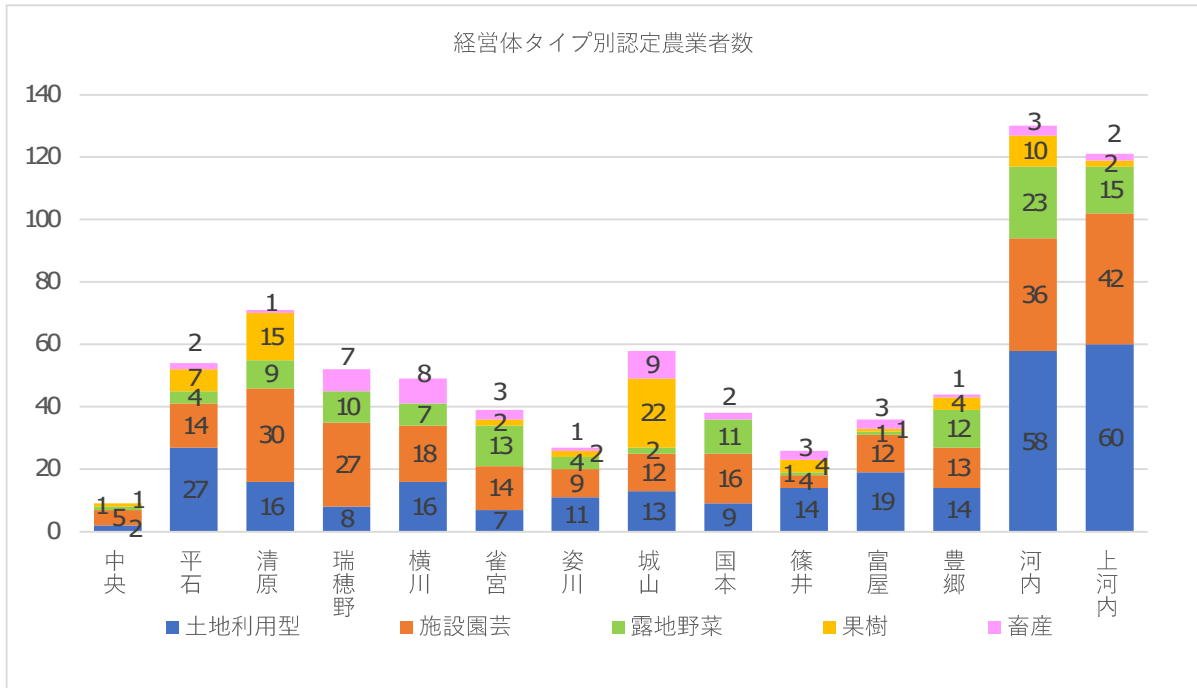
(1) 世帯数

(単位：戸)



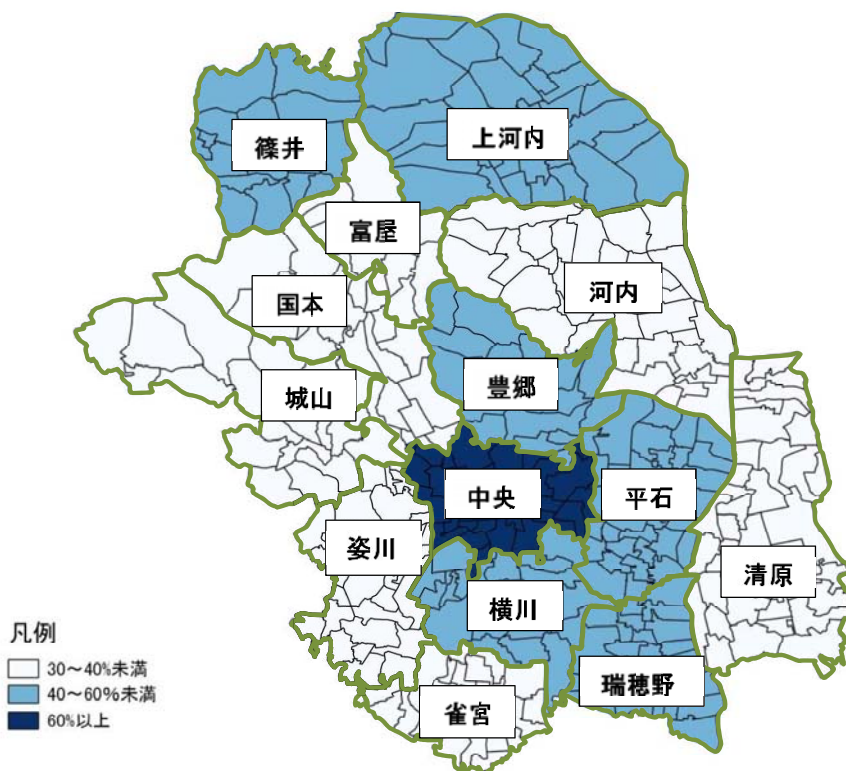
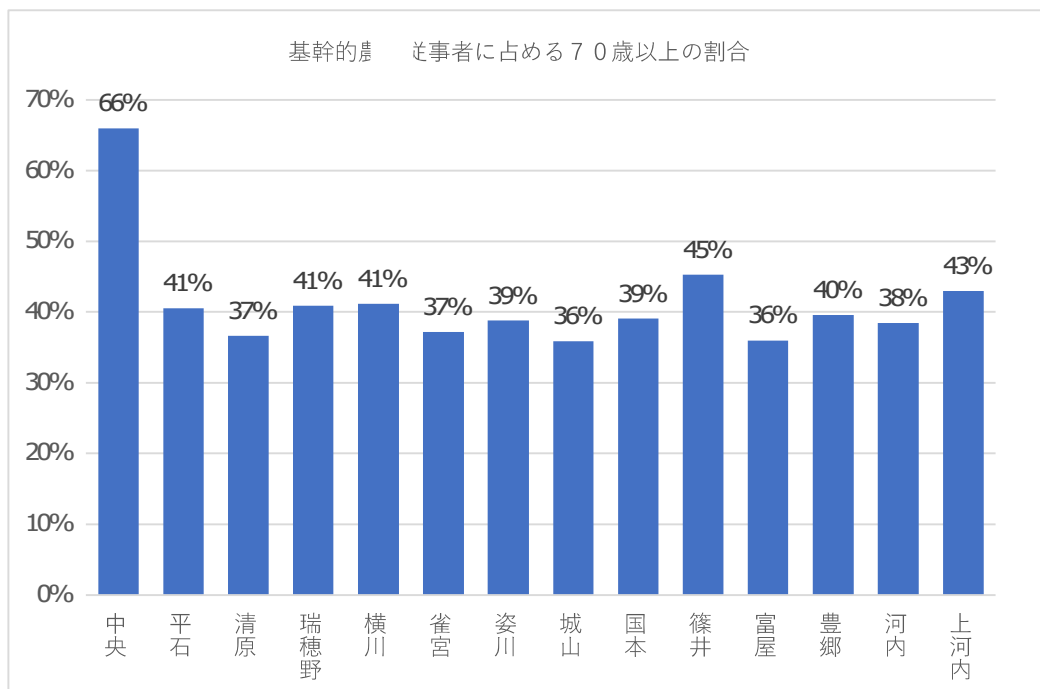
(2) 経営タイプ別認定農業者数

(単位：経営体)



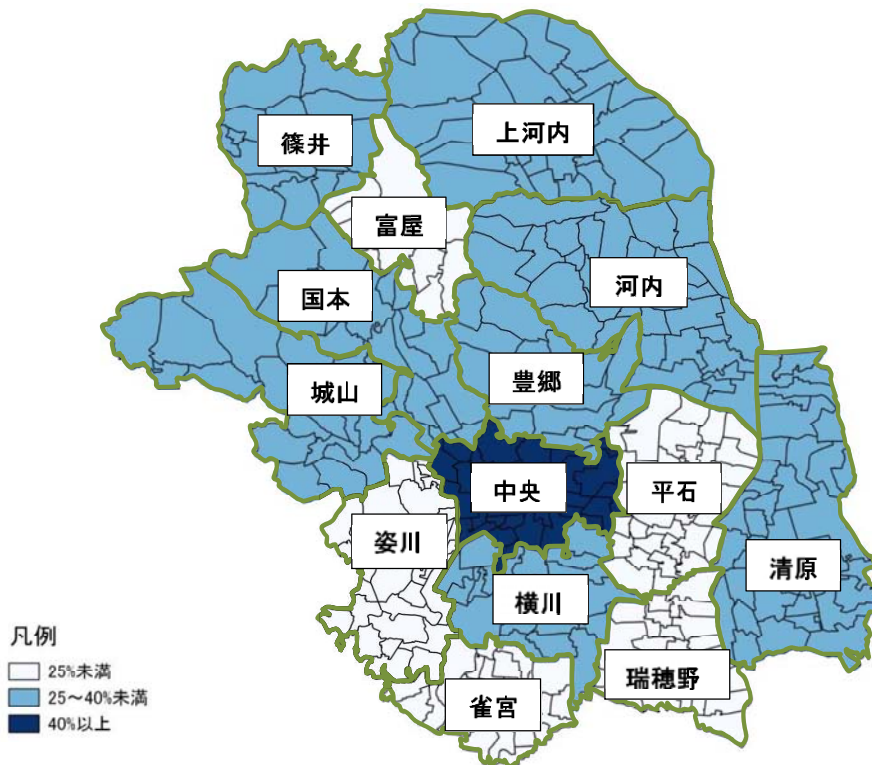
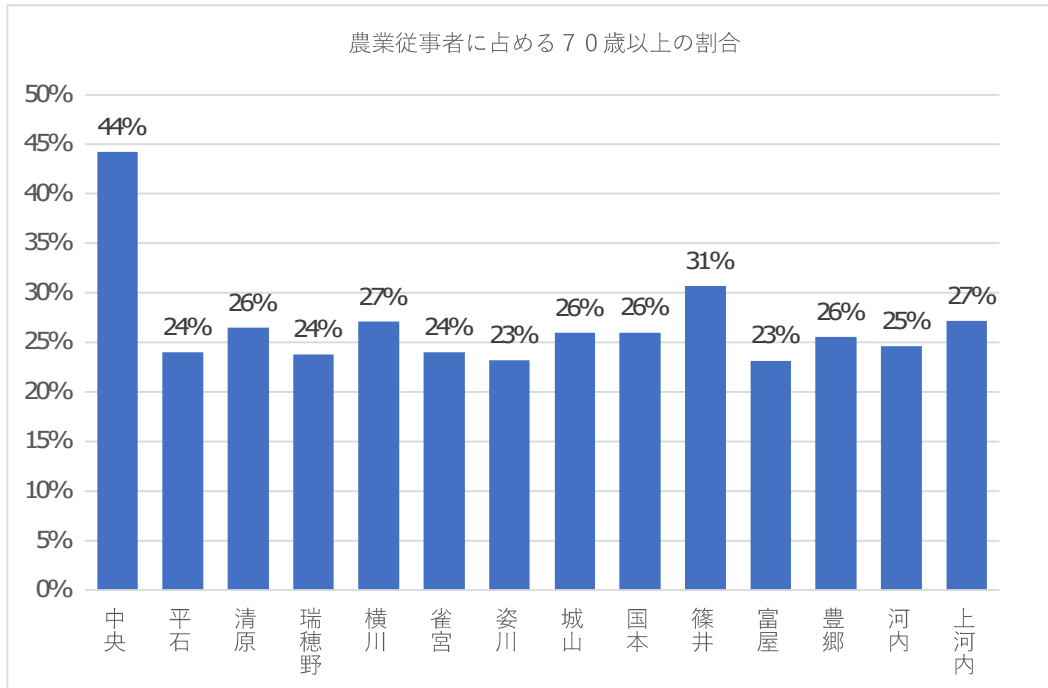
(3) 基幹的農業従事者に占める70歳以上の割合

(単位：%)



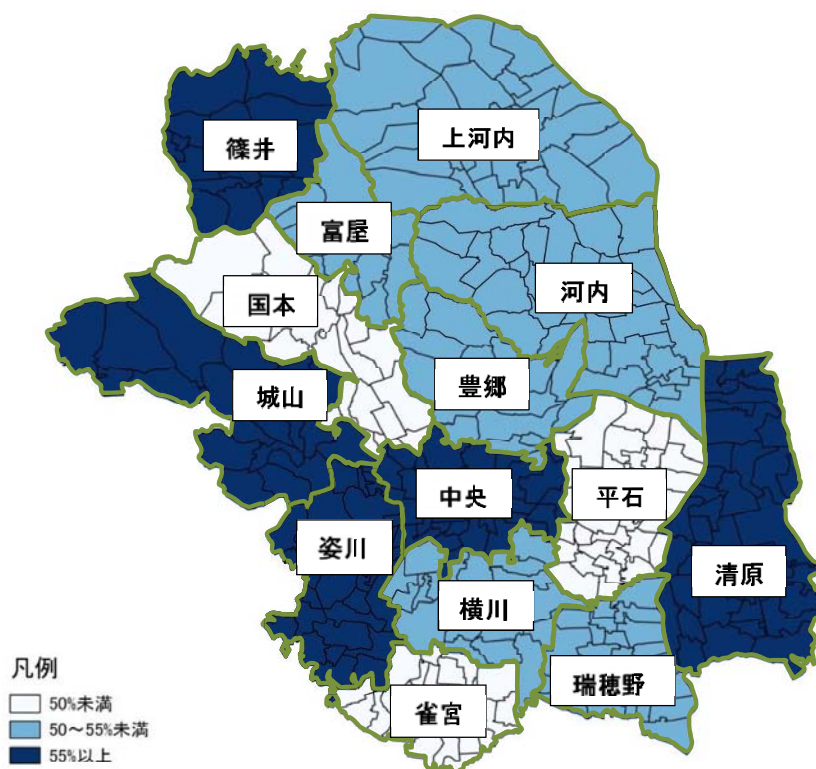
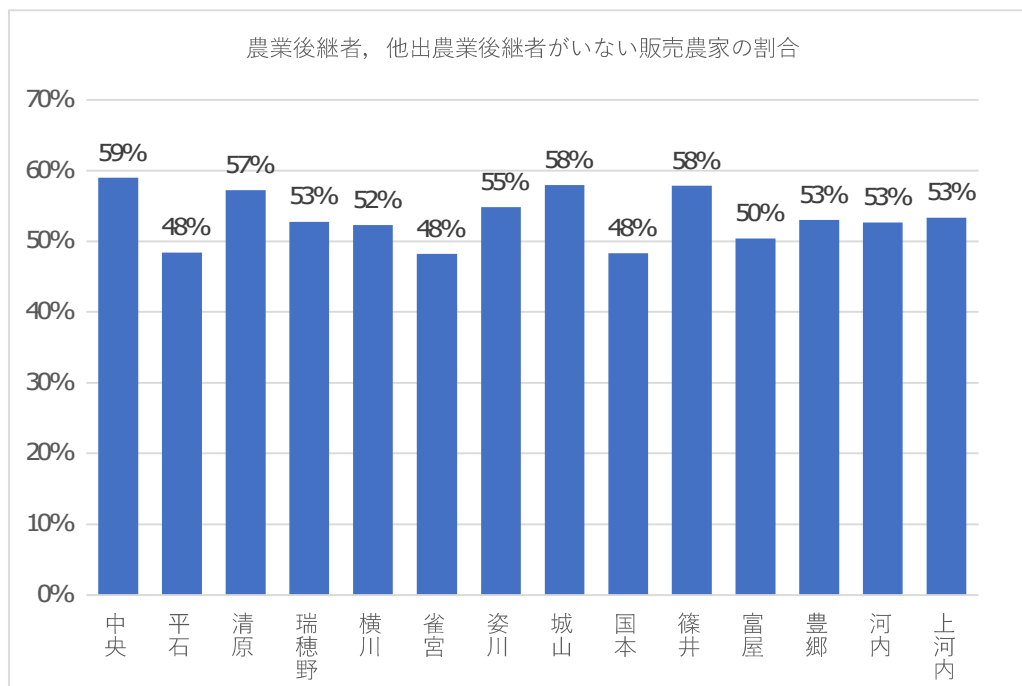
(4) 農業従事者に占める70歳以上の割合

(単位：%)

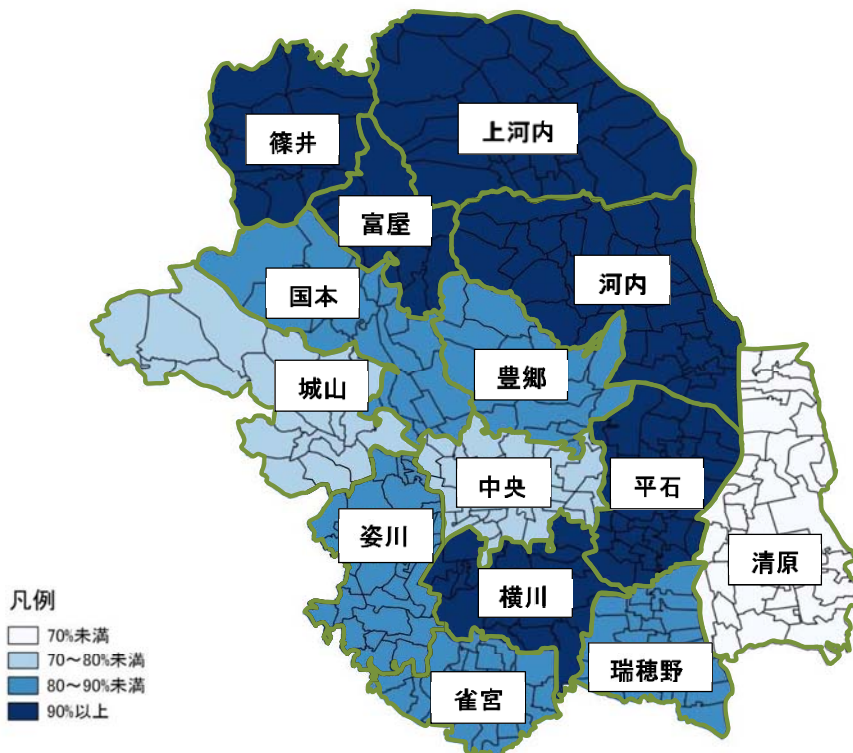
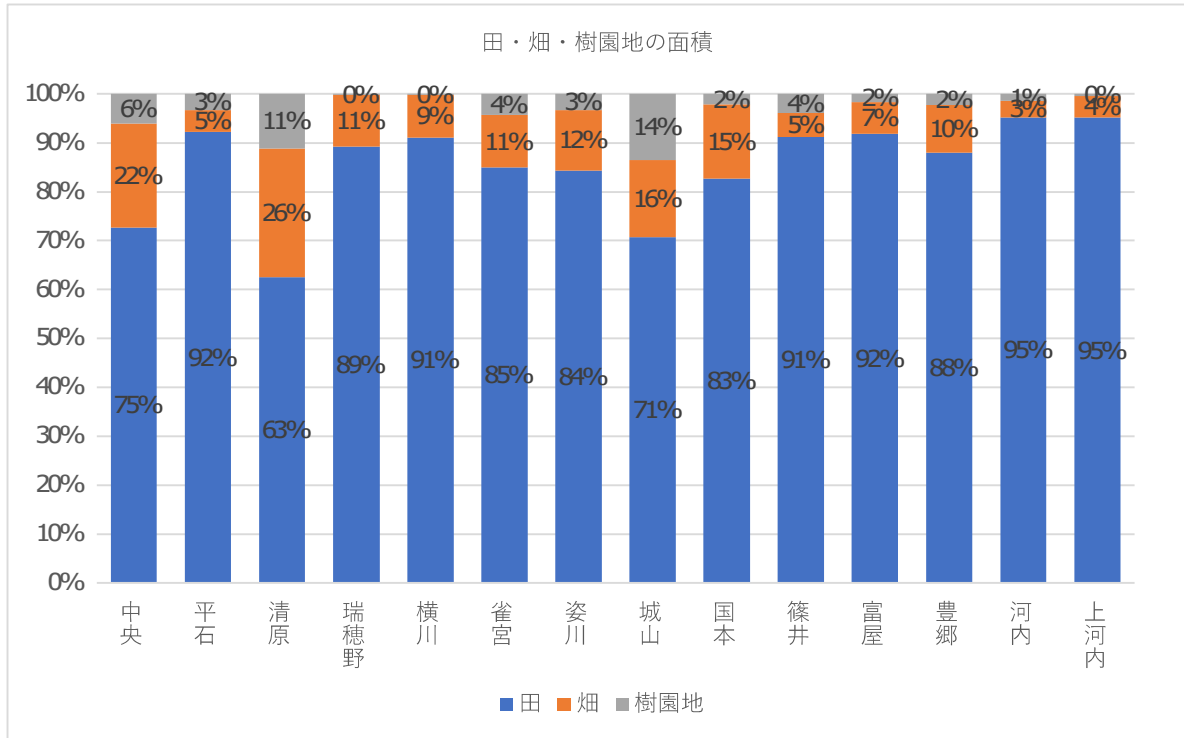


(5) 後継者等がない販売農家の割合

(単位：%)

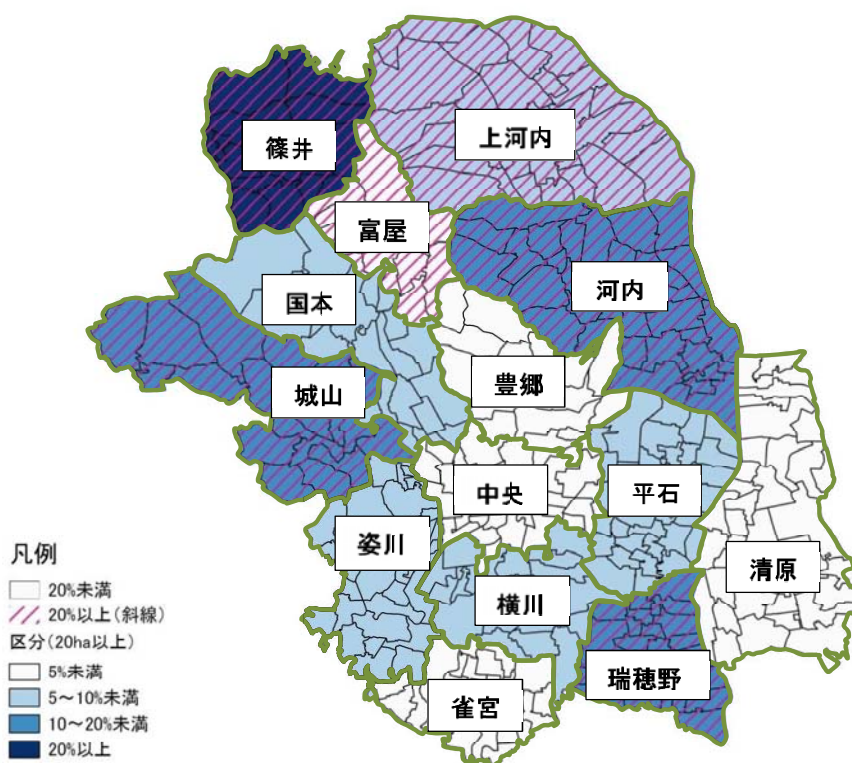
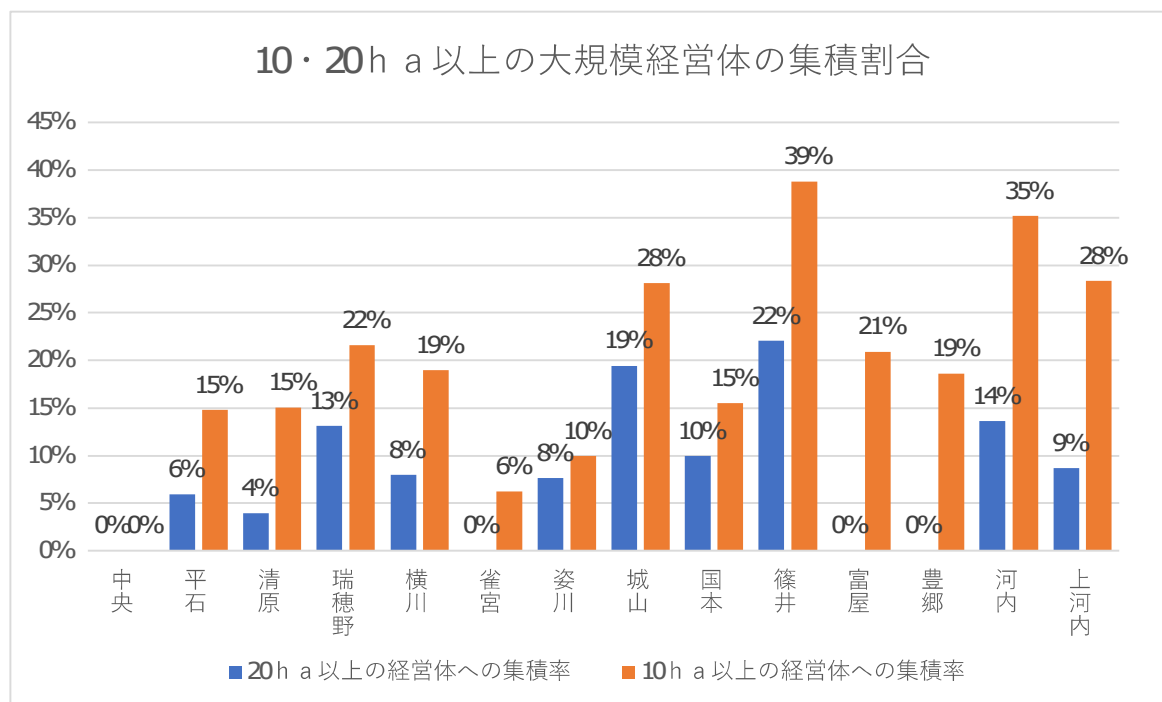


(6) 田・畑・樹園地の面積（経営耕地面積）



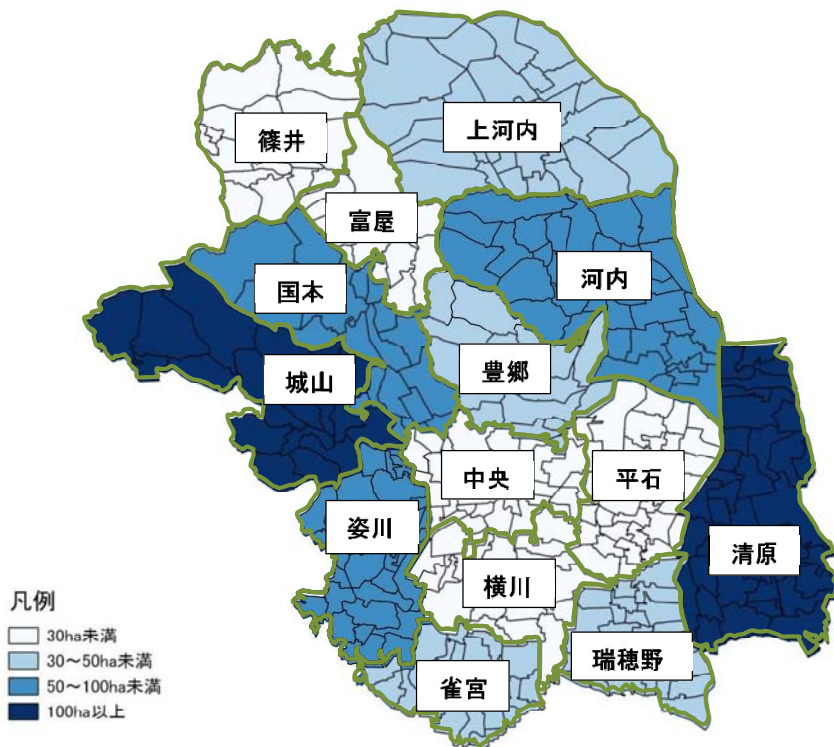
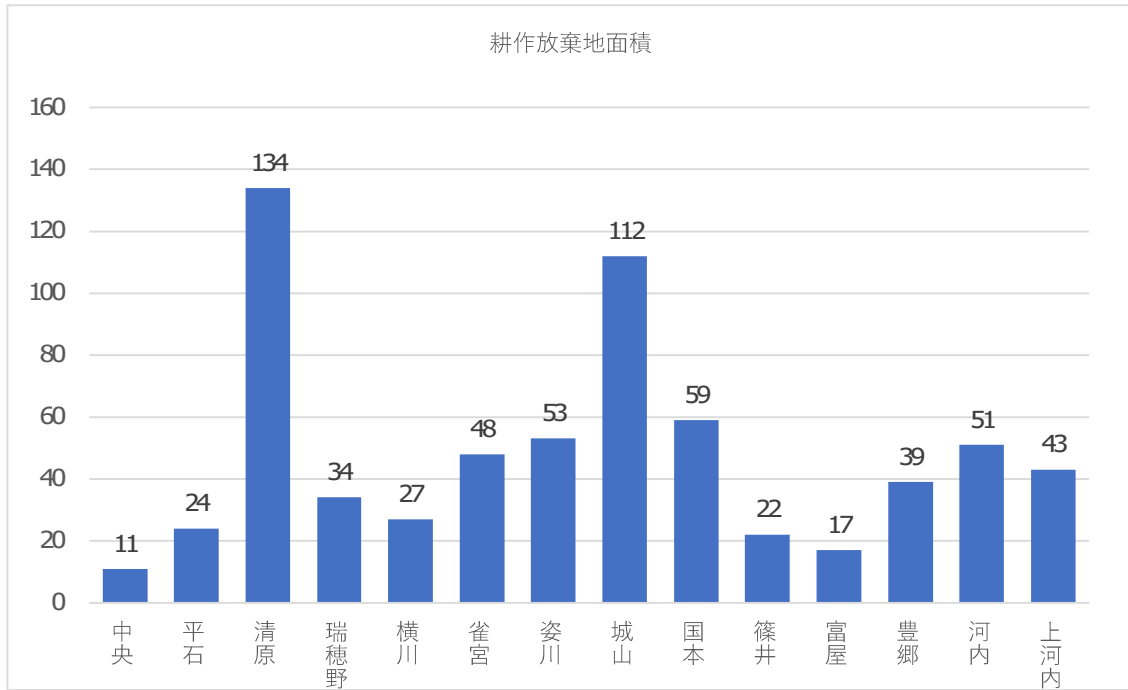
(7) 経営耕地に占める大規模経営体の経営耕地集積割合

(単位：%)

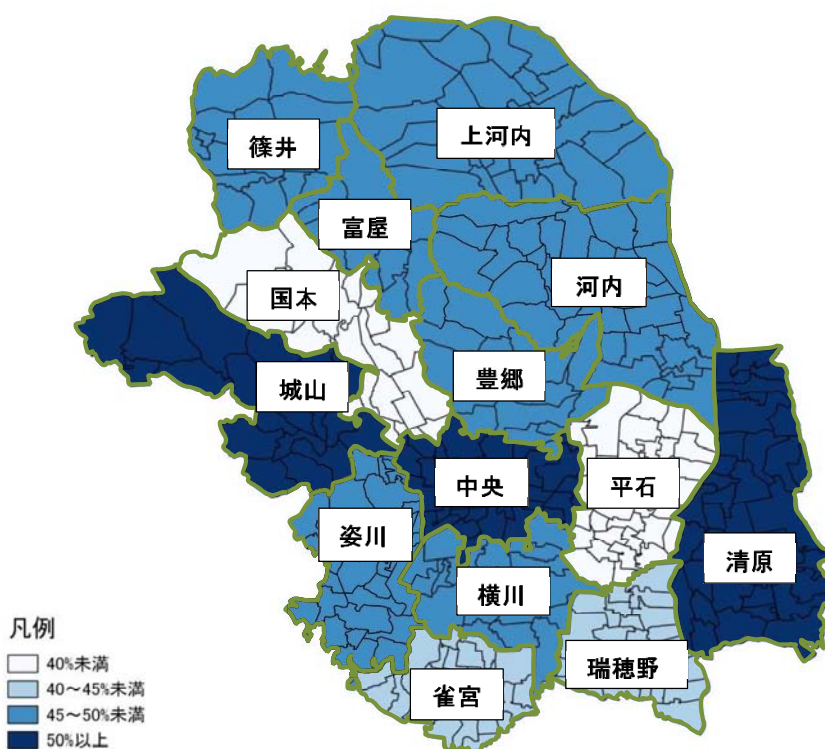
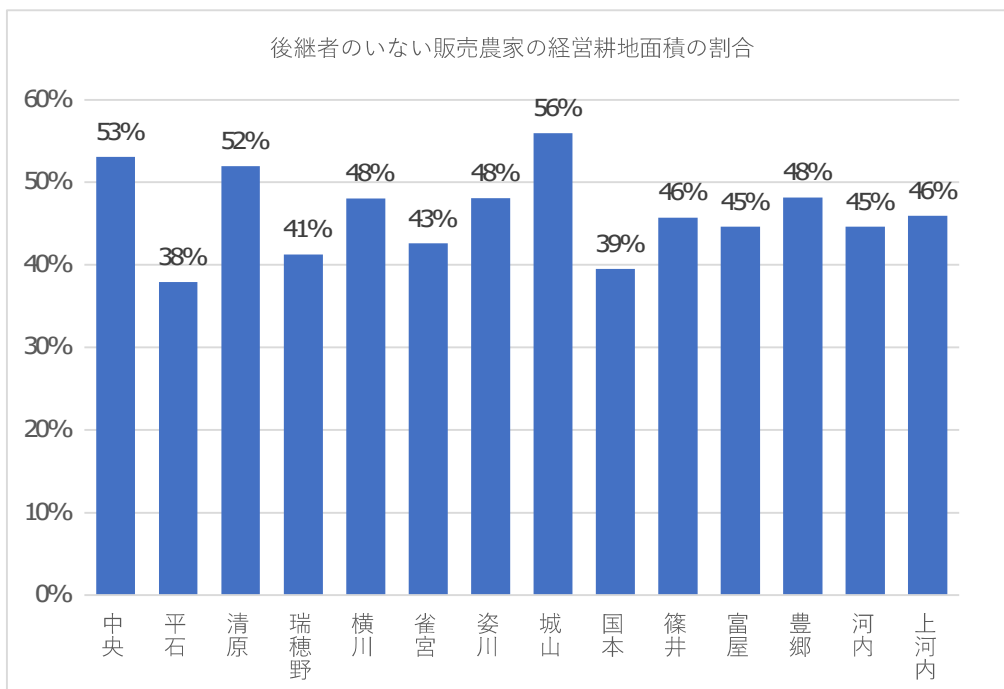


(8) 耕作放棄地面積

(単位：ha)



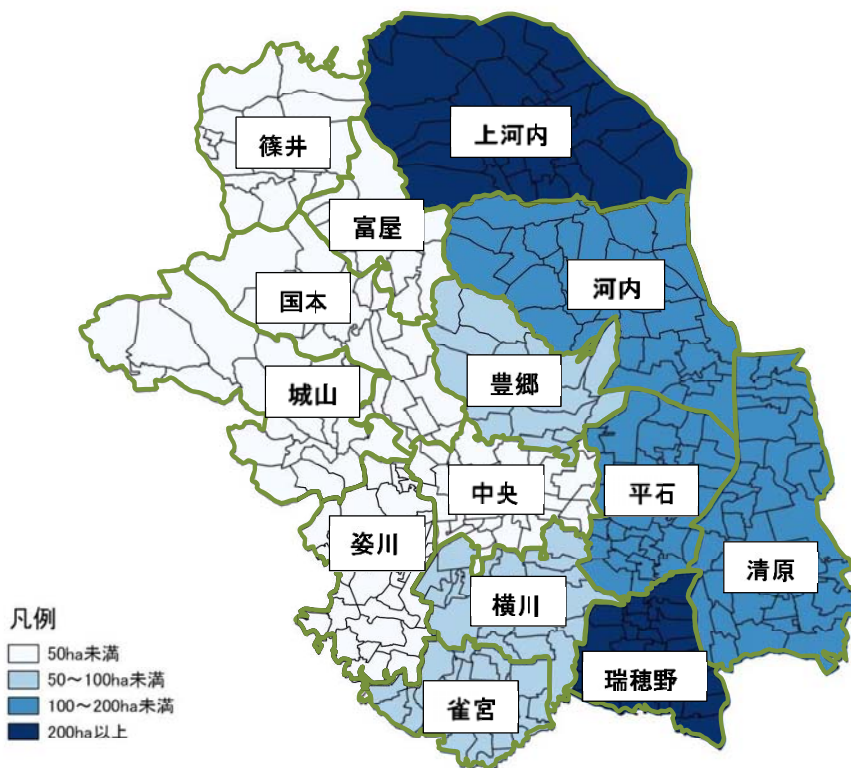
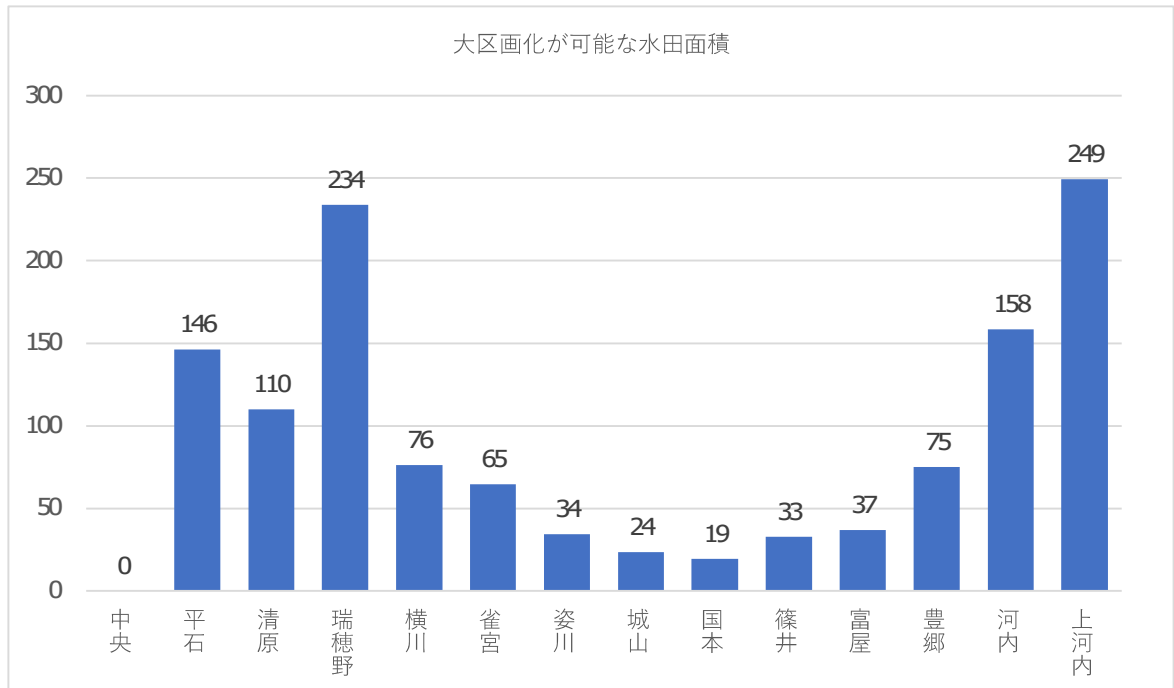
(9) 後継者のいない販売農家の経営耕地面積割合 (単位：%)



(10) 畦畔除去により大区画化が可能な水田面積

(50a以上に整備できる水田が10ha以上の区域となる面積)

(単位：ha)



(11) 販売目的の野菜類の作物別作付（栽培）経営体数

(単位：経営体)

		だい い こ ん	に ん じ ん	さ と い も	や ま の い も	は く さ い	キ ャ ベ ツ	ほう れん そう	レ タ ス	ね ぎ	た ま ね ぎ	ブ ロ ッ コ リ	き ゆう り	な す	ト マ ト	ピ ー マ ン	い ち ご	メ ロ ン	す い か	そ の 他
栃木県		3,036	1,239	2,366	206	3,065	1,642	2,271	740	2,918	1,804	1,297	2,391	2,888	1,961	681	1,953	113	537	3,850
宇都宮市		336	108	296	X	344	170	239	60	364	219	134	278	265	262	73	128	20	75	393
	中央	4	-	3	X	5	1	9	1	6	1	-	2	3	1	-	-	-	1	10
	平石	9	1	3	-	6	2	3	3	3	4	7	13	6	20	2	1	1	3	19
	清原	28	9	32	2	33	13	18	10	29	28	10	25	31	48	6	7	2	8	56
	瑞穂野	21	5	10	1	21	12	17	3	24	57	8	17	16	20	4	28	2	1	18
	横川	19	6	25	1	23	11	29	3	22	18	10	17	11	15	3	7	1	4	29
	雀宮	25	11	20	-	27	12	42	3	29	29	12	19	27	8	5	12	1	4	24
	姿川	24	7	28	-	27	12	23	3	27	6	11	25	22	15	5	10	3	12	24
	城山	28	13	32	-	33	16	19	8	24	10	18	27	21	22	9	2	1	4	48
	国本	37	19	35	3	37	17	17	5	45	9	14	18	19	15	7	3	3	4	33
	篠井	20	5	12	-	18	9	8	4	12	3	4	13	14	9	1	2	-	1	20
	富屋	19	4	15	1	15	11	9	2	12	3	9	13	12	16	4	8	1	2	10
	豊郷	22	7	18	9	18	14	7	1	34	4	6	13	12	12	3	4	-	6	19
	河内	34	11	27	1	38	20	23	9	54	24	11	37	40	28	17	18	3	16	47
	上河内	46	10	36	3	43	20	15	5	43	23	14	39	31	33	7	26	2	9	36

(12) 販売目的の果樹類の作物別作付（栽培）経営体

(単位：経営体)

		露 地	施 設	み か ん の き	か そ の り ん ご	ぶ ど う	日 本 な し	西 洋 な し	も も	お う と う	び わ	か き	く り	う め	す も	フ キ ル ウ ツ イ	ア バ ッ イ プ ル ン	そ の 他 の 果 樹	
栃木県		1846	136	16	43	125	273	598	19	62	12	4	163	307	301	61	167	0	277
宇都宮市		304	28	1	3	25	32	124	3	5	3	0	27	64	50	7	16	0	40
	中央	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	2	0	0	0	1
	平石	22	1	0	0	0	2	15	0	0	0	0	2	3	1	0	0	0	2
	清原	65	7	0	0	5	6	31	0	0	1	0	0	24	2	1	6	0	4
	瑞穂野	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	横川	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	雀宮	17	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0
	姿川	20	4	0	0	2	6	2	0	0	0	0	2	10	3	0	0	0	3
	城山	62	4	0	1	4	4	36	1	0	0	0	9	8	17	1	1	0	7
	国本	20	1	0	1	1	0	0	0	1	0	2	5	6	0	0	0	0	8
	篠井	18	0	0	0	12	0	0	2	2	0	2	2	2	4	1	0	1	1
	富屋	18	3	0	1	1	3	1	0	1	1	0	4	2	4	0	3	0	3
	豊郷	19	1	0	0	3	7	0	0	0	0	3	4	2	0	4	0	1	
	河内	24	2	0	0	3	16	0	0	0	0	1	1	5	1	0	0	2	
	上河内	13	4	0	0	4	0	0	1	0	0	1	4	3	0	1	0	5	

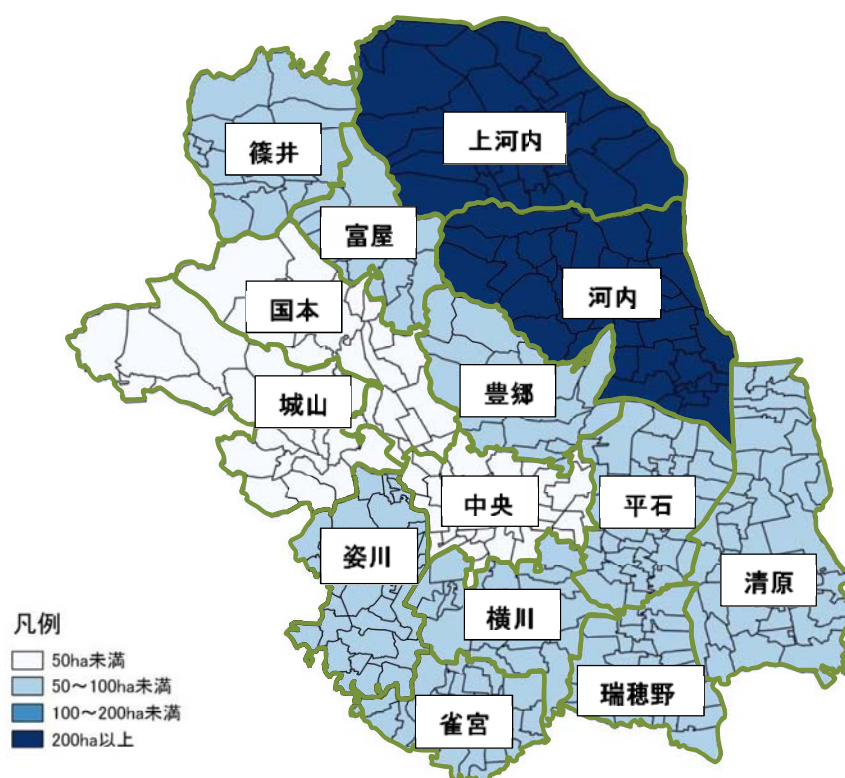
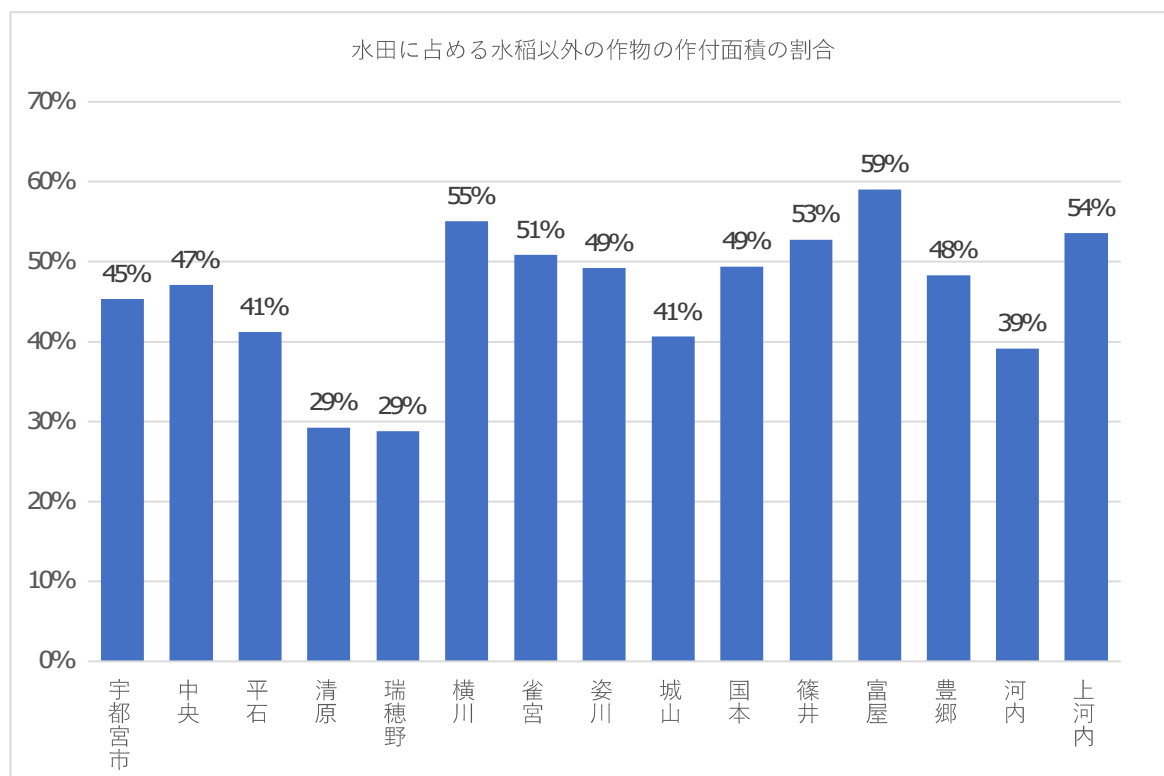
(13) 畜種別経営体数

(単位：戸)

		乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏
栃木県		784	1097	93	85
宇都宮市		13	45	2	9
	中央	-	-	-	-
	平石	-	-	5	-
	清原	-	-	1	2
	瑞穂野	2	3	2	-
	横川	-	12	-	-
	雀宮	-	2	-	-
	姿川	-	1	-	-
	城山	4	11	-	1
	国本	1	2	-	1
	篠井	1	1	-	1
	富屋	1	1	-	-
	豊郷	-	-	-	2
	河内	2	2	-	1
	上河内	2	4	-	1

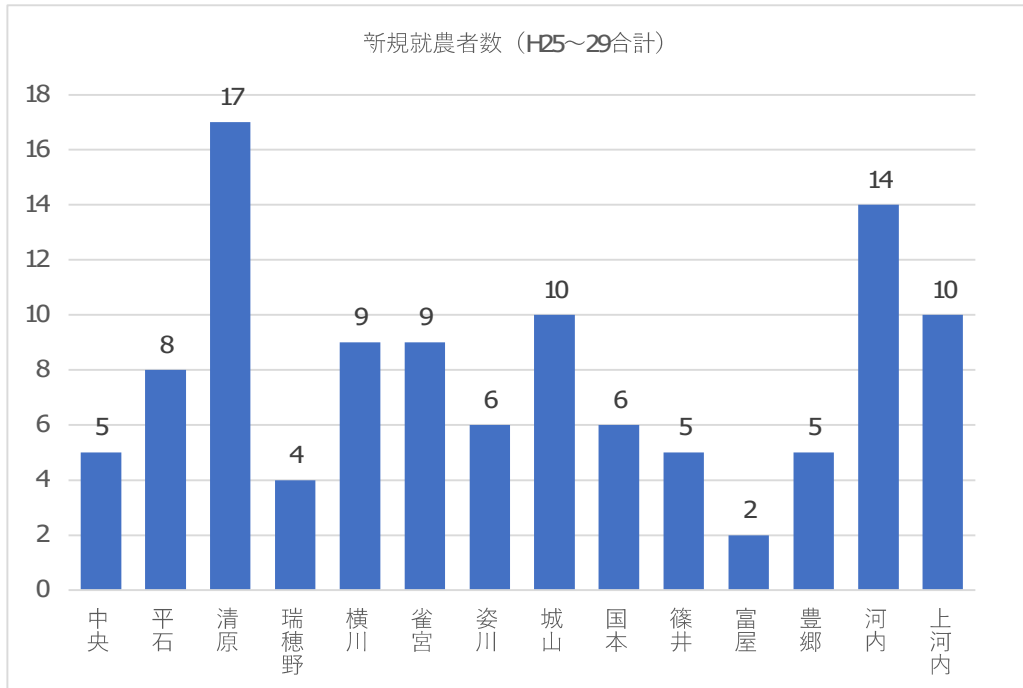
(14) 水田（畦畔を除く）における米以外の作物作付面積の割合

(単位：%)



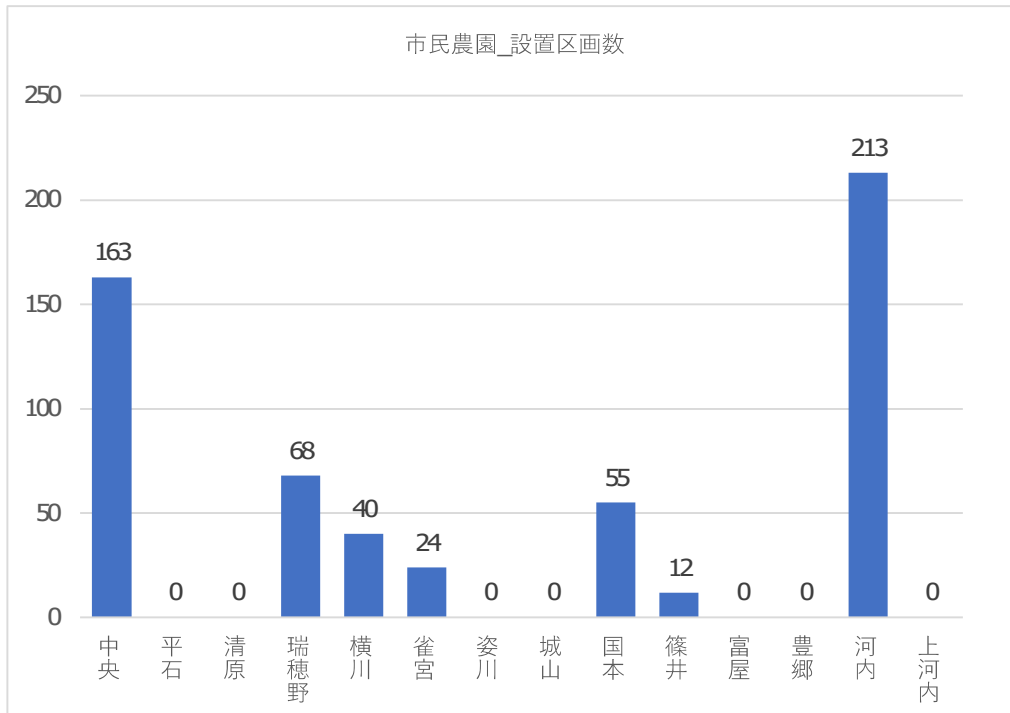
(15) 新規就農者数 (H25～29合計)

(単位：経営体)

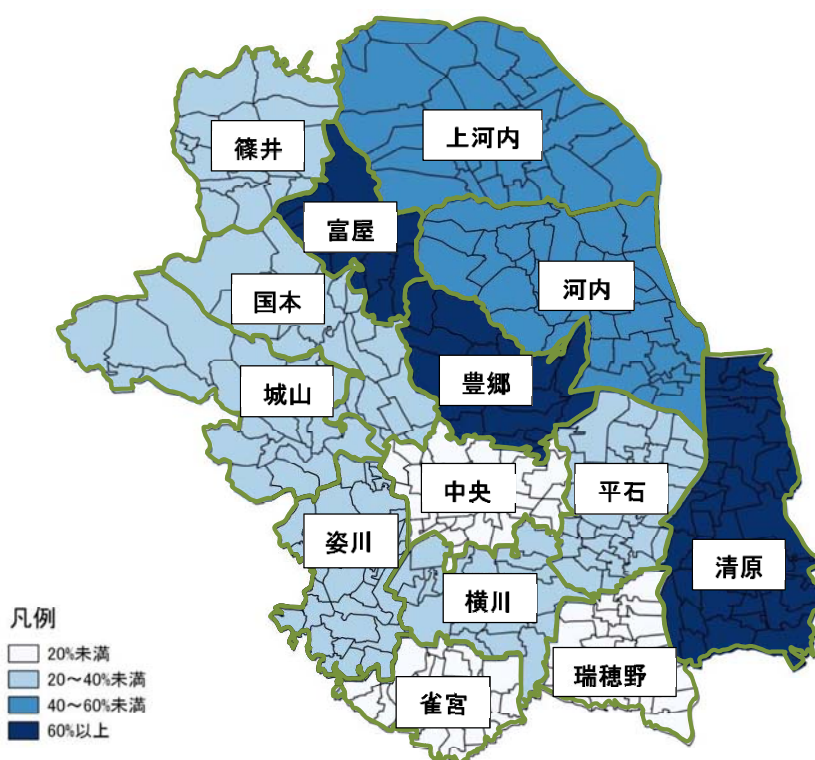
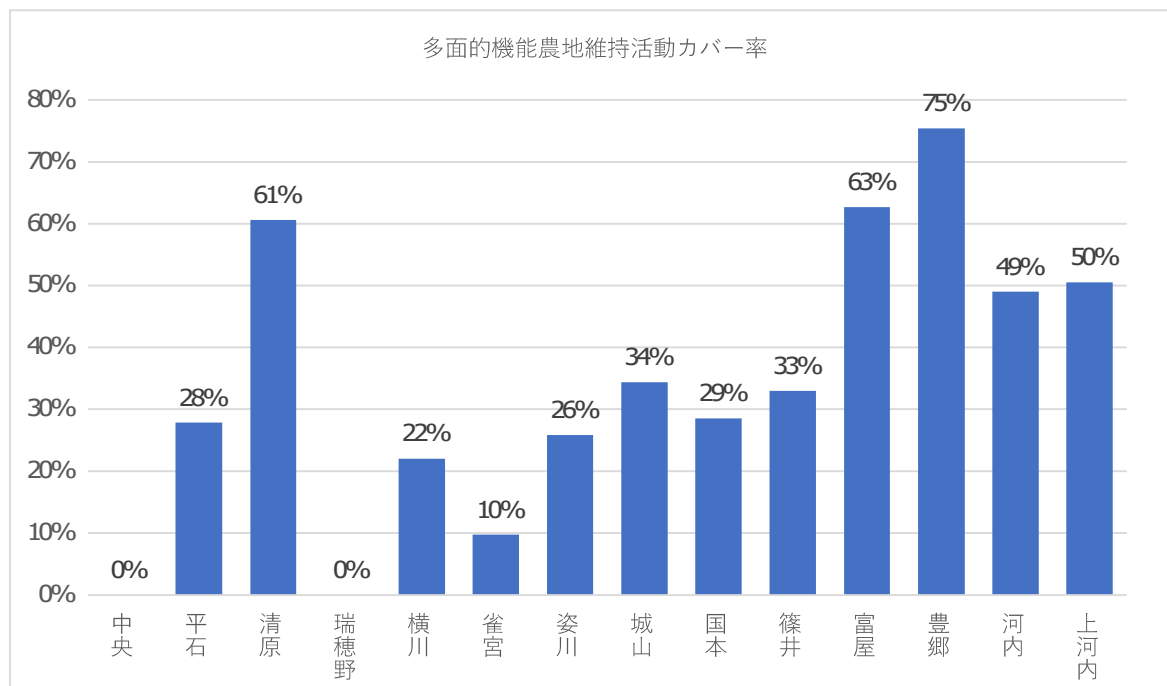


(16) 市民農園

(単位：区画)

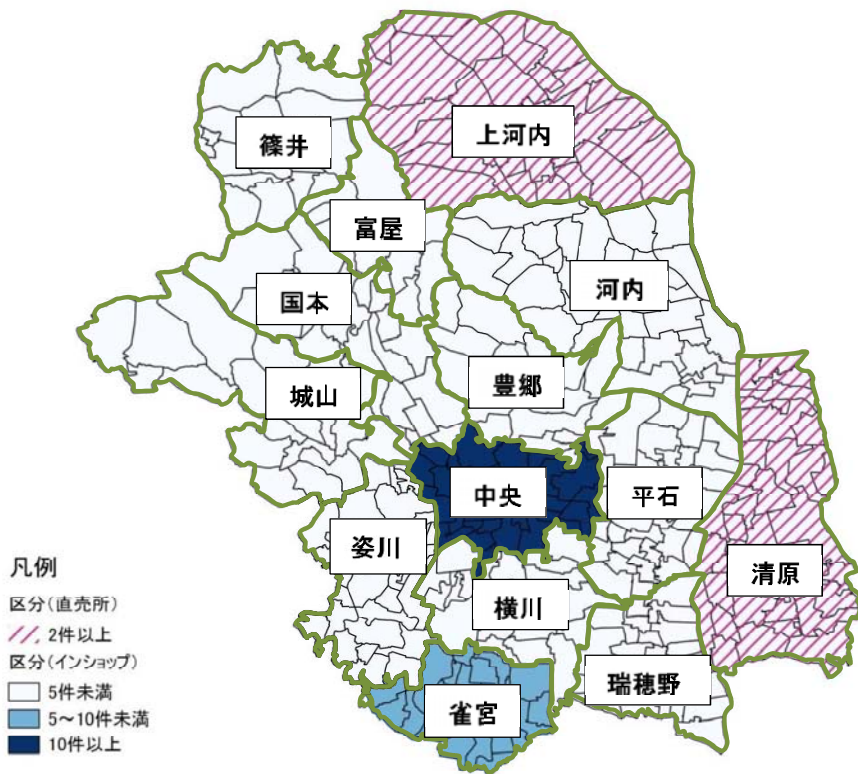
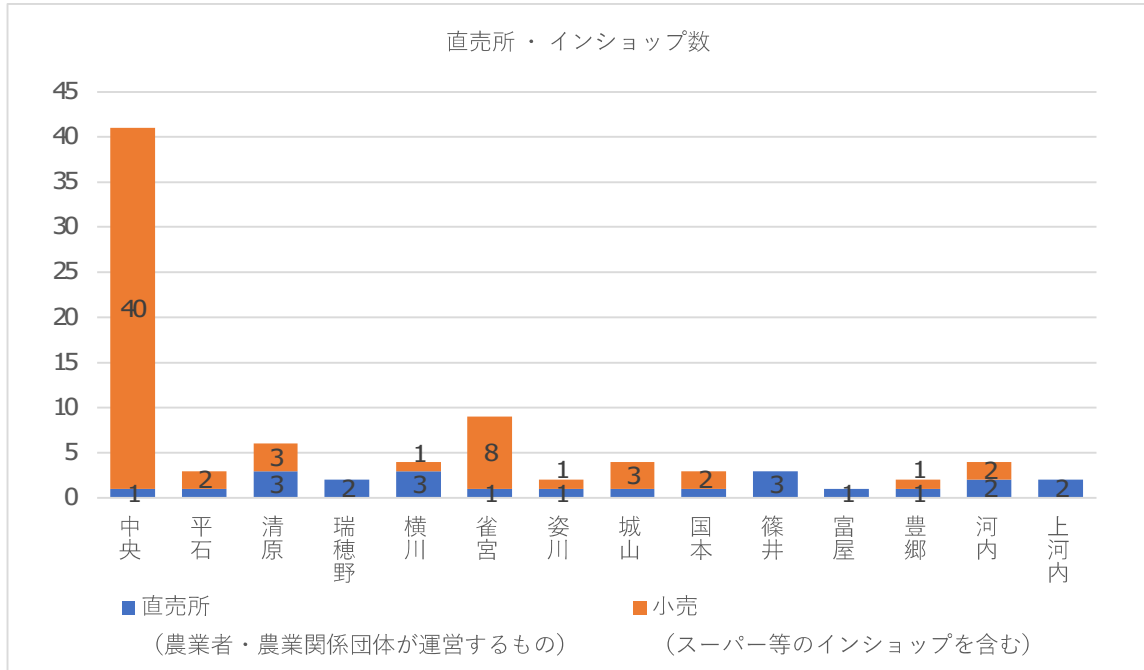


(17) 農業振興地域農用地区域における多面的機能農地維持活動カバー率 (単位：%)



(18) 直売所数, インショップ数

(単位：箇所)



(19) 直売所を販路とする農業経営体数の割合

(単位：%)

